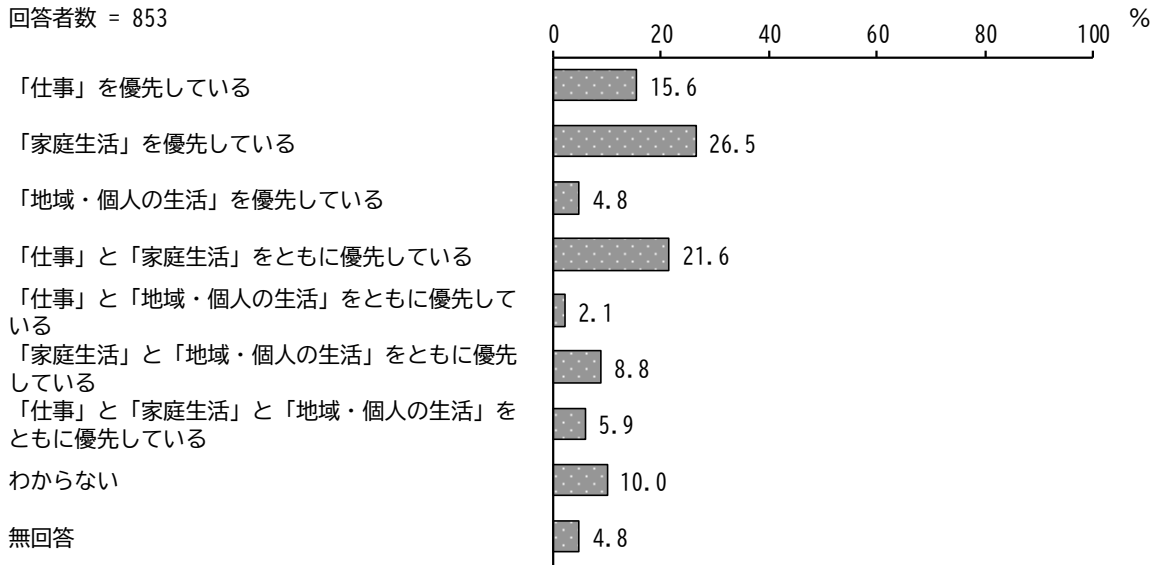
7　ワーク・ライフ・バランスについて

問 14　あなたの現実（現状）に最も近いものはどれですか。
（あてはまるもの１つに○）

「『家庭生活』を優先している」の割合が 26.5%と最も高く、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」の割合が 21.6%、「『仕事』を優先している」の割合が 15.6%となっています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「『仕事』を優先している」「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」の割合が、女性で「『家庭生活』を優先している」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	わからない	無回答
全　体	853	15.6	26.5	4.8	21.6	2.1	8.8	5.9	10.0	4.8
女性	500	8.8	36.6	4.4	17.0	1.8	11.8	6.6	8.2	4.8
男性	339	26.0	11.5	5.3	28.6	2.7	4.7	5.0	12.1	4.1

【性別（前回比較）】

性別で前回調査と比較すると、女性、男性ともに「『家庭生活』を優先している」の割合が減少しています。

単位：％

区分	回答者数（件）	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	わからない	無回答
女性（令和４年度調査）	500	8.8	36.6	4.4	17.0	1.8	11.8	6.6	8.2	4.8
女性（平成 28 年度調査）	514	10.1	43.6	2.1	19.5	1.4	10.5	4.1	6.0	2.7
男性（令和４年度調査）	339	26.0	11.5	5.3	28.6	2.7	4.7	5.0	12.1	4.1
男性（平成 28 年度調査）	351	23.1	21.9	3.7	25.9	3.1	7.1	5.4	7.1	2.6

【性別・共働き別】

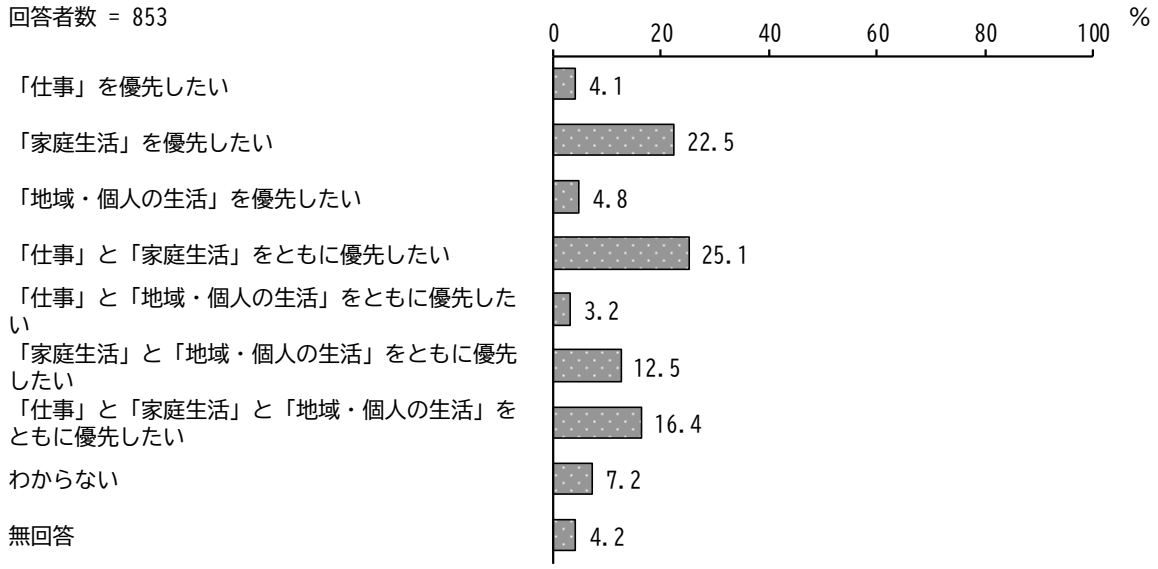
性別・共働き別にみると、他に比べ、男性共働きしているで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」の割合が、女性共働きしていないで「『家庭生活』を優先している」の割合が、女性共働きしているで「『家庭生活』を優先している」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	わからない	無回答
全　体	853	15.6	26.5	4.8	21.6	2.1	8.8	5.9	10.0	4.8
女性　共働きしている	202	7.9	44.1	－	24.8	0.5	7.4	9.4	4.0	2.0
女性　共働きしていない	134	2.2	47.8	5.2	9.0	－	21.6	0.7	9.0	4.5
男性　共働きしている	102	30.4	6.9	1.0	51.0	2.0	1.0	2.9	4.9	－
男性　共働きしていない	144	22.9	14.6	4.9	22.2	2.8	7.6	4.9	13.9	6.3

問 15　あなたの希望に最も近いものはどれですか。（あてはまるもの１つに○）

「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」の割合が 25.1%と最も高く、次いで「『家庭生活』を優先したい」の割合が 22.5%、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」の割合が 16.4%となっています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	わからない	無回答
全　体	853	4.1	22.5	4.8	25.1	3.2	12.5	16.4	7.2	4.2
女性	500	2.4	27.2	4.0	19.4	2.4	15.4	17.4	7.2	4.6
男性	339	6.8	15.6	5.9	33.3	4.4	8.6	15.3	7.1	2.9

【性別（前回比較）】

性別で前回調査と比較すると、女性では大きな差はみられません。

男性で「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」の割合が増加しています。一方、「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」の割合が減少しています。

単位：％

区分	回答者数（件）	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	わからない	無回答
女性（令和４年度調査）	500	2.4	27.2	4.0	19.4	2.4	15.4	17.4	7.2	4.6
女性（平成 28 年度調査）	514	1.9	30.0	3.7	23.9	2.7	13.8	14.8	6.6	2.5
男性（令和４年度調査）	339	6.8	15.6	5.9	33.3	4.4	8.6	15.3	7.1	2.9
男性（平成 28 年度調査）	351	7.4	17.9	7.1	28.2	5.1	13.7	12.5	5.1	2.8

【性別・共働き別】

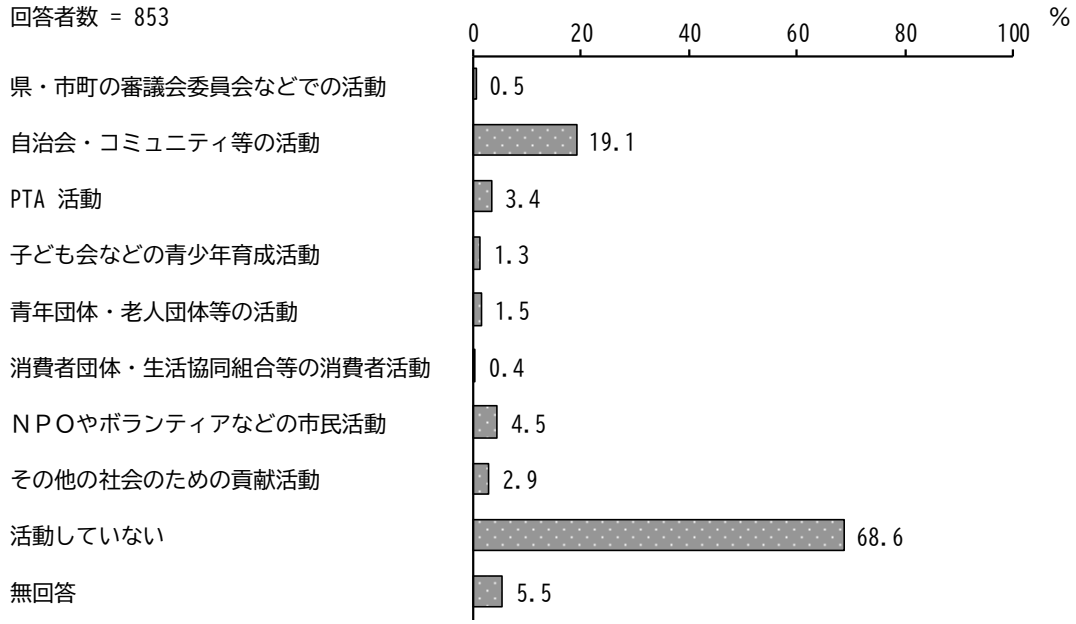
性別・共働き別にみると、他に比べ、男性共働きしているで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい」の割合が、女性共働きしていないで「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先したい」「『家庭生活』を優先したい」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	わからない	無回答
全　体	853	4.1	22.5	4.8	25.1	3.2	12.5	16.4	7.2	4.2
女性　共働きしている	202	3.0	32.2	1.0	25.2	－	11.9	20.8	3.5	2.5
女性　共働きしていない	134	0.7	33.6	3.0	9.7	3.0	26.9	11.2	6.0	6.0
男性　共働きしている	102	6.9	20.6	1.0	47.1	2.0	2.9	12.7	6.9	－
男性　共働きしていない	144	6.3	11.8	4.9	31.9	2.8	13.2	17.4	6.3	5.6

問16　あなたは次のような活動をしていますか。（あてはまるものすべてに○）

「活動していない」の割合が68.6%と最も高く、次いで「自治会・コミュニティ等の活動」の割合が19.1%となっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数（件）	県・市町の審議会委員会などでの活動	自治会・コミュニティ等の活動	ＰＴＡ活動	子ども会などの青少年育成活動	青年団体・老人団体等の活動	消費者団体・生活協同組合等の消費者活動	ＮＰＯやボランティアなどの市民活動	その他の社会のための貢献活動	活動していない	無回答
全　体	853	0.5	19.1	3.4	1.3	1.5	0.4	4.5	2.9	68.6	5.5
女性	500	0.4	20.4	5.4	1.4	1.0	0.4	4.6	3.0	66.8	5.8
男性	339	0.6	18.0	0.6	1.2	2.4	0.3	4.1	2.9	71.7	3.8

【性別（前回比較）】

性別で前回調査と比較すると、女性で「活動していない」の割合が増加しています。一方、「ＰＴＡ活動」の割合が減少しています。

男性では大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数（件）	県・市町の審議会委員会などでの活動	自治会・コミュニティ等の活動	ＰＴＡ活動	子ども会などの青少年育成活動	青年団体・老人団体等の活動	消費者団体・生活協同組合等の消費者活動	ＮＰＯやボランティアなどの市民活動	その他の社会のための貢献活動	活動していない	無回答
女性（令和４年度調査）	500	0.4	20.4	5.4	1.4	1.0	0.4	4.6	3.0	66.8	5.8
女性（平成28年度調査）	514	0.6	23.0	10.7	2.5	1.6	0.6	6.6	3.9	61.1	3.3
男性（令和４年度調査）	339	0.6	18.0	0.6	1.2	2.4	0.3	4.1	2.9	71.7	3.8
男性（平成28年度調査）	351	1.7	19.1	1.1	2.3	2.6	0.3	5.1	4.8	69.2	1.7

【性別・共働き別】

性別・共働き別にみると、他に比べ、男性共働きしているで「活動していない」の割合が、女性共働きしているで「自治会・コミュニティ等の活動」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	県・市町の審議会委員会などでの活動	自治会・コミュニティ等の活動	ＰＴＡ活動	子ども会などの青少年育成活動	青年団体・老人団体等の活動	消費者団体・生活協同組合等の消費者活動	ＮＰＯやボランティアなどの市民活動	その他の社会のための貢献活動	活動していない	無回答
全　体	853	0.5	19.1	3.4	1.3	1.5	0.4	4.5	2.9	68.6	5.5
女性　共働きしている	202	－	24.3	11.4	3.0	1.5	0.5	5.0	3.0	64.9	2.0
女性　共働きしていない	134	1.5	17.9	1.5	0.7	－	－	6.7	2.2	64.2	11.2
男性　共働きしている	102	1.0	19.6	1.0	2.0	－	1.0	3.9	－	74.5	1.0
男性　共働きしていない	144	0.7	21.5	0.7	0.7	3.5	－	5.6	4.9	65.3	4.9

問 17　あなたが参加した活動では、次のようなことがありましたか。(①～⑦のそれぞれについて、１～４の中であてはまるもの１つに○、それ以外の内容については、「⑧その他」に記入してください。)

『④　お茶入れや食事の準備などは女性がしている』で「ある」の割合が高くなっています。また、『⑤　女性は発言しにくい雰囲気がある』で「ない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	ある	少しある	ない	わからない	無回答
①　行事やイベントの企画は主に男性が決定している	221	19.0	29.0	28.5	17.6	5.9
②　代表者は男性から選ばれる	221	24.9	23.1	33.5	12.7	5.9
③　女性は責任のある役を引き受けたがらない	221	17.2	33.5	23.5	20.4	5.4
④　お茶入れや食事の準備などは女性がしている	221	36.2	23.1	19.0	14.9	6.8
⑤　女性は発言しにくい雰囲気がある	221	5.9	16.7	57.9	13.6	5.9
⑥　名簿上は男性が会員になっているが実際は女性（配偶者）が活動している	221	21.7	26.2	26.7	19.5	5.9
⑦　PTA 活動は女性中心、自治会は男性中心であるなど、男性と女性の仕事がわけられている	221	13.6	33.5	17.6	29.9	5.4
⑧　その他	221	1.4	0.9			97.7

①　行事やイベントの企画は主に男性が決定している

【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「ある」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	ある	少しある	ない	わからない	無回答
全　体	221	19.0	29.0	28.5	17.6	5.9
女性	137	13.1	28.5	29.9	21.2	7.3
男性	83	28.9	30.1	25.3	12.0	3.6

【自治会・コミュニティ等の活動の有無別】

自治会・コミュニティ等の活動の有無別にみると、他に比べ、自治会・コミュニティ等の活動をしていないで「ある」「ない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	ある	少しある	ない	わからない	無回答
全　体	221	19.0	29.0	28.5	17.6	5.9
自治会・コミュニティ等の活動をしている	163	16.6	30.7	26.4	22.1	4.3
自治会・コミュニティ等の活動をしていない	58	25.9	24.1	34.5	5.2	10.3

② 代表者は男性から選ばれる

【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「ある」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	ある	少しある	ない	わからない	無回答
全　体	221	24.9	23.1	33.5	12.7	5.9
女性	137	18.2	22.6	38.0	14.6	6.6
男性	83	36.1	24.1	25.3	9.6	4.8

③ 女性は責任のある役を引き受けたがらない

【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数（件）	ある	少しある	ない	わからない	無回答
全　体	221	17.2	33.5	23.5	20.4	5.4
女性	137	16.1	37.2	21.9	19.0	5.8
男性	83	19.3	27.7	25.3	22.9	4.8

【自治会・コミュニティ等の活動の有無別】

自治会・コミュニティ等の活動の有無別にみると、他に比べ、自治会・コミュニティ等の活動をしていないで「ない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	ある	少しある	ない	わからない	無回答
全　体	221	17.2	33.5	23.5	20.4	5.4
自治会・コミュニティ等の活動をしている	163	17.8	36.8	20.9	20.9	3.7
自治会・コミュニティ等の活動をしていない	58	15.5	24.1	31.0	19.0	10.3

④　お茶入れや食事の準備などは女性がしている

【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「少しある」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	ある	少しある	ない	わからない	無回答
全　体	221	36.2	23.1	19.0	14.9	6.8
女性	137	40.1	18.2	16.8	16.8	8.0
男性	83	30.1	31.3	21.7	12.0	4.8

【自治会・コミュニティ等の活動の有無別】

自治会・コミュニティ等の活動の有無別にみると、他に比べ、自治会・コミュニティ等の活動をしていないで「ない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	ある	少しある	ない	わからない	無回答
全　体	221	36.2	23.1	19.0	14.9	6.8
自治会・コミュニティ等の活動をしている	163	38.7	25.2	12.9	17.8	5.5
自治会・コミュニティ等の活動をしていない	58	29.3	17.2	36.2	6.9	10.3

⑤　女性は発言しにくい雰囲気がある

【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「ない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	ある	少しある	ない	わからない	無回答
全　体	221	5.9	16.7	57.9	13.6	5.9
女性	137	7.3	18.2	51.8	16.1	6.6
男性	83	3.6	14.5	67.5	9.6	4.8

【自治会・コミュニティ等の活動の有無別】

自治会・コミュニティ等の活動の有無別にみると、他に比べ、自治会・コミュニティ等の活動をしていないで「ない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	ある	少しある	ない	わからない	無回答
全　体	221	5.9	16.7	57.9	13.6	5.9
自治会・コミュニティ等の活動をしている	163	6.7	17.2	55.2	16.0	4.9
自治会・コミュニティ等の活動をしていない	58	3.4	15.5	65.5	6.9	8.6

⑥　名簿上は男性が会員になっているが実際は女性（配偶者）が活動している

【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「ない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	ある	少しある	ない	わからない	無回答
全　体	221	21.7	26.2	26.7	19.5	5.9
女性	137	24.8	29.2	19.0	19.7	7.3
男性	83	16.9	21.7	38.6	19.3	3.6

【自治会・コミュニティ等の活動の有無別】

自治会・コミュニティ等の活動の有無別にみると、他に比べ、自治会・コミュニティ等の活動をしていないで「ない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	ある	少しある	ない	わからない	無回答
全　体	221	21.7	26.2	26.7	19.5	5.9
自治会・コミュニティ等の活動をしている	163	23.9	29.4	22.1	20.9	3.7
自治会・コミュニティ等の活動をしていない	58	15.5	17.2	39.7	15.5	12.1

⑦　PTA 活動は女性中心、自治会は男性中心であるなど、男性と女性の仕事がわけられている

【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「わからない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	ある	少しある	ない	わからない	無回答
全　体	221	13.6	33.5	17.6	29.9	5.4
女性	137	18.2	35.0	15.3	25.5	5.8
男性	83	6.0	31.3	20.5	37.3	4.8

⑧　その他

【性別】

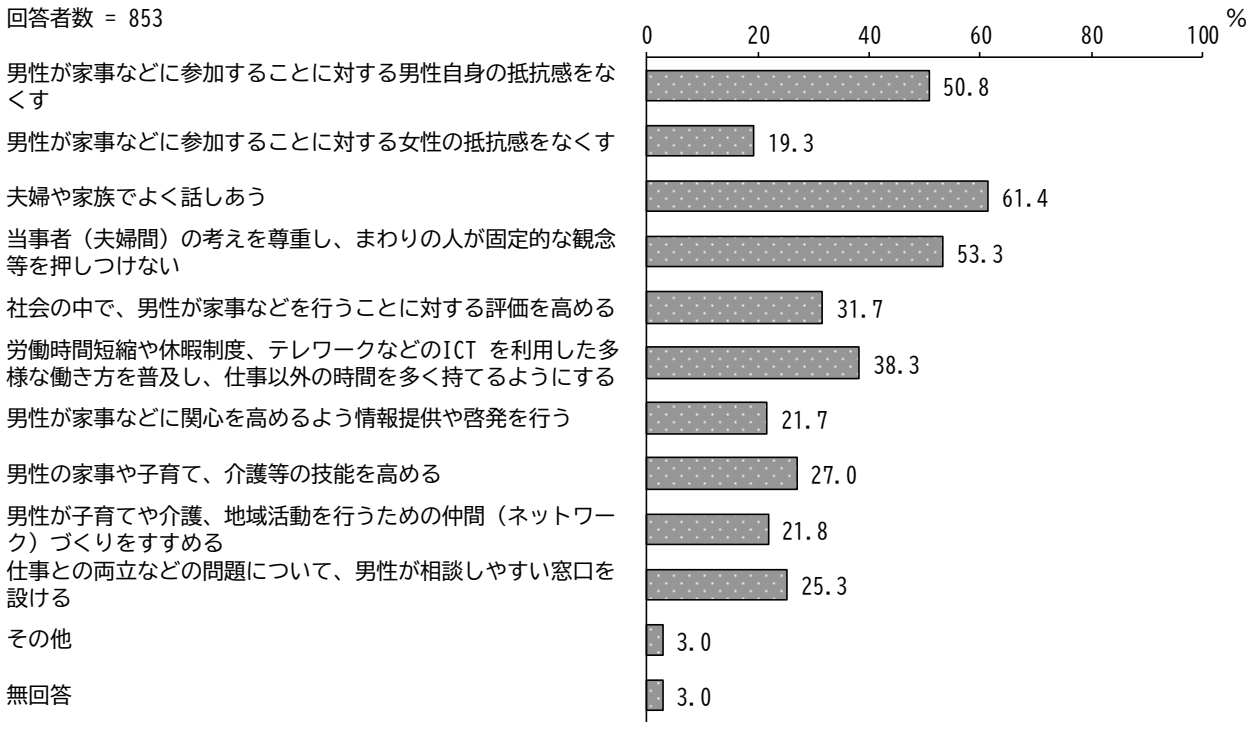
性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数（件）	ある	少しある	無回答
全　体	221	1.4	0.9	97.7
女性	137	0.7	－	99.3
男性	83	2.4	2.4	95.2

問 18　あなたは、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「夫婦や家族でよく話しあう」の割合が 61.4%と最も高く、次いで「当事者（夫婦間）の考えを尊重し、まわりの人が固定的な観念等を押しつけない」の割合が 53.3%、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」の割合が 50.8%となっています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、女性で「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす	男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす	夫婦や家族でよく話しあう	当事者（夫婦間）の考えを尊重し、まわりの人が固定的な観念等を押しつけない	社会の中で、男性が家事などを行うことに対する評価を高める	労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及し、仕事以外の時間を多く持てるようにする
全　体	853	50.8	19.3	61.4	53.3	31.7	38.3
女性	500	57.4	21.0	63.2	56.4	35.0	39.0
男性	339	41.3	16.8	59.3	49.3	26.8	37.2

区分	男性が家事などに関心を高めるよう情報提供や啓発を行う	男性の家事や子育て、介護等の技能を高める	男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）づくりをすすめる	仕事との両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設ける	その他	無回答
全　体	21.7	27.0	21.8	25.3	3.0	3.0
女性	24.4	30.0	23.4	25.4	2.0	2.8
男性	17.7	22.4	19.8	24.5	4.7	2.9

【性別（国比較）】

性別で国調査（男女共同参画社会に関する世論調査（令和４年 11 月調査））と比較すると、女性、男性ともに「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」「社会の中で、男性が家事などを行うことに対する評価を高める」「労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどの ICT を利用した多様な働き方を普及し、仕事以外の時間を多く持てるようにする」の割合が低くなっています。一方、男性で「当事者（夫婦間）の考えを尊重し、まわりの人が固定的な観念等を押しつけない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす	男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす	夫婦や家族でよく話しあう	当事者（夫婦間）の考えを尊重し、まわりの人が固定的な観念等を押しつけない	社会の中で、男性が家事などを行うことに対する評価を高める	労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどの ICT を利用した多様な働き方を普及し、仕事以外の時間を多く持てるようにする
女性	500	57.4	21.0	63.2	56.4	35.0	39.0
女性（国調査）	1,534	66.7	22.8	65.1	52.5	44.5	48.3
男性	339	41.3	16.8	59.3	49.3	26.8	37.2
男性（国調査）	1,313	53.7	17.2	58	35.1	44.4	44.9

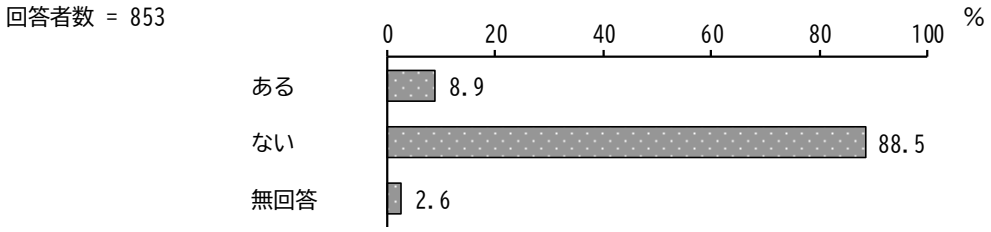
区分	男性が家事などに関心を高めるよう情報提供や啓発を行う	男性の家事や子育て、介護等の技能を高める	男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）づくりをすすめる	仕事との両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設ける	その他	無回答
女性	24.4	30.0	23.4	25.4	2.0	2.8
女性（国調査）	－	25.3	26.5	－	－	1.8
男性	17.7	22.4	19.8	24.5	4.7	2.9
男性（国調査）	－	22.7	21.2	－	－	1.9

※国調査では「男性の育児・家事などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと」の選択肢となっている。

８　性と人権について

問 19　あなたは、配偶者やパートナー、交際相手からＤＶまたはデートＤＶを受けたことがありますか。（どちらか１つに○）

「ある」の割合が 8.9%、「ない」の割合が 88.5%となっています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「ない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	ある	ない	無回答
全　体	853	8.9	88.5	2.6
女性	500	13.4	85.0	1.6
男性	339	2.7	94.1	3.2

【性別・年代別】

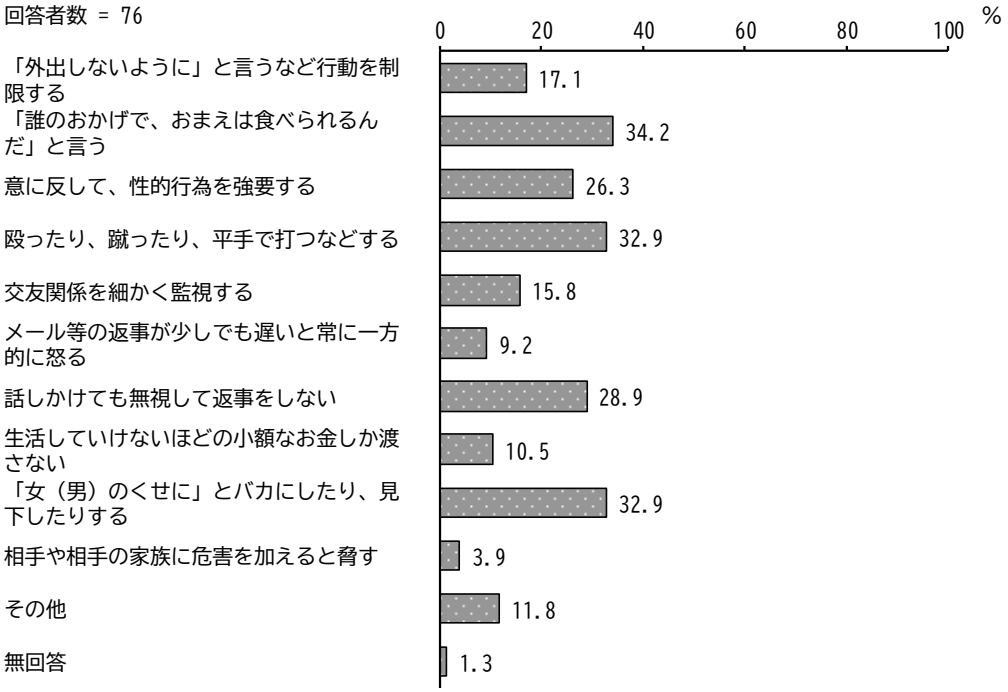
性別・年代別にみると、他に比べ、男性 20 歳代で「ない」の割合が、男性 60 歳代で「ない」の割合が、男性 40 歳代で「ない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	ある	ない	無回答
全　体	853	8.9	88.5	2.6
女性　10 歳代	8	－	100.0	－
女性　20 歳代	23	8.7	91.3	－
女性　30 歳代	52	13.5	86.5	－
女性　40 歳代	66	15.2	84.8	－
女性　50 歳代	87	17.2	82.8	－
女性　60 歳代	92	15.2	83.7	1.1
女性　70 歳代	113	9.7	88.5	1.8
女性　80 歳以上	59	13.6	78.0	8.5
男性　10 歳代	7	－	100.0	－
男性　20 歳代	16	－	100.0	－
男性　30 歳代	27	3.7	88.9	7.4
男性　40 歳代	54	3.7	94.4	1.9
男性　50 歳代	59	6.8	93.2	－
男性　60 歳代	52	1.9	98.1	－
男性　70 歳代	79	1.3	92.4	6.3
男性　80 歳以上	44	－	93.2	6.8

問 20　あなたが受けたＤＶまたはデートＤＶはどのような内容ですか。
（あてはまるものすべてに○）

「『誰のおかげで、おまえは食べられるんだ』と言う」の割合が 34.2%と最も高く、次いで「殴ったり、蹴ったり、平手で打つなどする」、「『女（男）のくせに』とバカにしたり、見下したりする」の割合が 32.9%となっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数（件）	「外出しないように」と言うなど行動を制限する	「誰のおかげで、おまえは食べられるんだ」と言う	意に反して、性的行為を強要する	殴ったり、蹴ったり、平手で打つなどする	交友関係を細かく監視する	メール等の返事が少しでも遅いと常に一方的に怒る
全　体	76	17.1	34.2	26.3	32.9	15.8	9.2
女性	67	17.9	38.8	29.9	34.3	14.9	10.4
男性	9	11.1	－	－	22.2	22.2	－

区分	話しかけても無視して返事をしない	生活していけないほどの小額なお金しか渡さない	「女（男）のくせに」とバカにしたり、見下したりする	相手や相手の家族に危害を加えると脅す	その他	無回答
全　体	28.9	10.5	32.9	3.9	11.8	1.3
女性	29.9	11.9	32.8	3.0	11.9	1.5
男性	22.2	－	33.3	11.1	11.1	－

【性別（前回比較）】

性別で前回調査と比較すると、女性で「『外出しないように』と言うなど行動を制限する」「意に反して、性的行為を強要する」の割合が増加しています。一方、「『誰のおかげで、おまえは食べられるんだ』と言う」「殴ったり、蹴ったり、平手で打つなどする」の割合が減少しています。

男性で「『外出しないように』と言うなど行動を制限する」の割合が増加しています。一方、「『誰のおかげで、おまえは食べられるんだ』と言う」「意に反して、性的行為を強要する」「殴ったり、蹴ったり、平手で打つなどする」「話しかけても無視して返事をしない」「生活していけないほどの小額なお金しか渡さない」の割合が減少しています。

単位：％

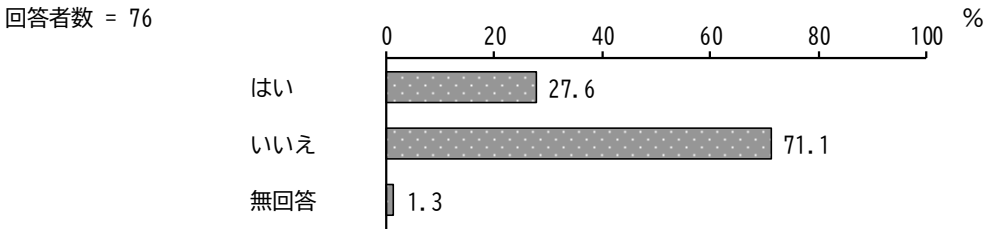
区分	回答者数（件）	「外出しないように」と言うなど行動を制限する	「誰のおかげで、おまえは食べられるんだ」と言う	意に反して、性的行為を強要する	殴ったり、蹴ったり、平手で打つなどする	交友関係を細かく監視する	メール等の返事が少しでも遅いと常に一方的に怒る
女性（令和４年度調査）	67	17.9	38.8	29.9	34.3	14.9	10.4
女性（平成 28 年度調査）	49	8.2	49.0	20.4	46.9	10.2	－
男性（令和４年度調査）	9	11.1	－	－	22.2	22.2	－
男性（平成 28 年度調査）	8	－	37.5	12.5	50.0	25.0	－

区分	話しかけても無視して返事をしない	生活していけないほどの小額なお金しか渡さない	「女（男）のくせに」とバカにしたり、見下したりする	相手や相手の家族に危害を加えると脅す	その他	無回答
女性（令和４年度調査）	29.9	11.9	32.8	3.0	11.9	1.5
女性（平成 28 年度調査）	32.7	14.3	－	－	8.2	8.2
男性（令和４年度調査）	22.2	－	33.3	11.1	11.1	－
男性（平成 28 年度調査）	62.5	12.5	－	－	12.5	－

※平成 28 年度調査では「メール等の返事が少しでも遅いと常に一方的に怒る」「『女（男）のくせに』とバカにしたり、見下したりする」「相手や相手の家族に危害を加えると脅す」の選択肢はありません。

問 21　あなたがＤＶまたはデートＤＶを受けたとき、どこかに相談しましたか。
（どちらか１つに○）

「はい」の割合が 27.6%、「いいえ」の割合が 71.1%となっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数（件）	はい	いいえ	無回答
全　体	76	27.6	71.1	1.3
女性	67	31.3	67.2	1.5
男性	9	－	100.0	－

【性別（前回比較）】

性別で前回調査と比較すると、女性では大きな差はみられません。

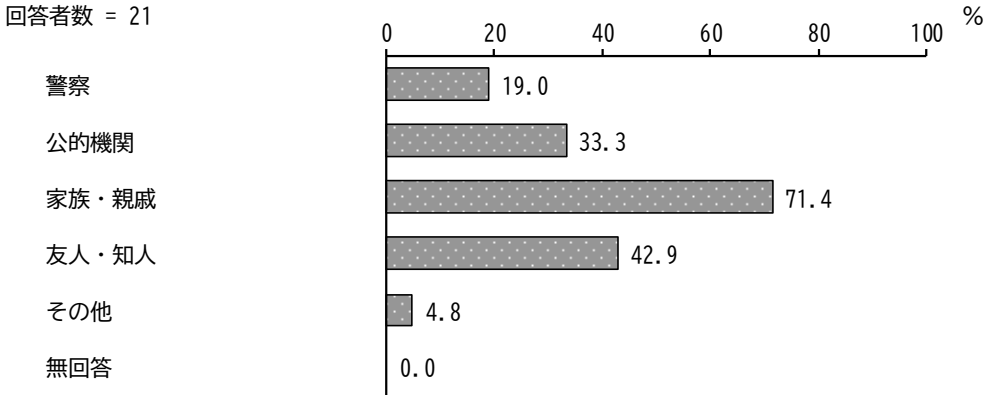
男性で「いいえ」の割合が増加しています。

単位：%

区分	回答者数（件）	はい	いいえ	無回答
女性（令和４年度調査）	67	31.3	67.2	1.5
女性（平成 28 年度調査）	49	34.7	63.3	2.0
男性（令和４年度調査）	9	－	100.0	－
男性（平成 28 年度調査）	8	25.0	62.5	12.5

問 22　あなたがＤＶまたはデートＤＶを受けたとき、どこに相談しましたか。
（あてはまるものすべてに○）

「家族・親戚」の割合が 71.4%と最も高く、次いで「友人・知人」の割合が 42.9%、「公的機関」の割合が 33.3%となっています。



【性別】

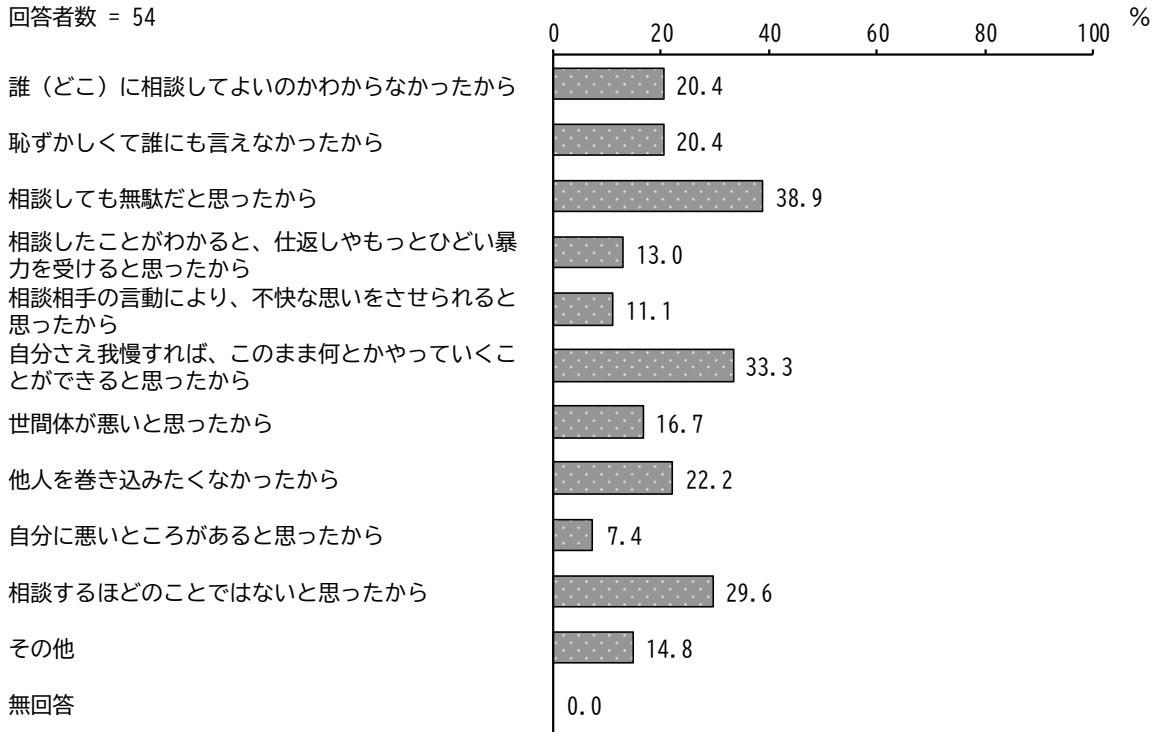
性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数（件）	警察	公的機関	家族・親戚	友人・知人	その他	無回答
全　体	21	19.0	33.3	71.4	42.9	4.8	－
女性	21	19.0	33.3	71.4	42.9	4.8	－
男性	－	－	－	－	－	－	－

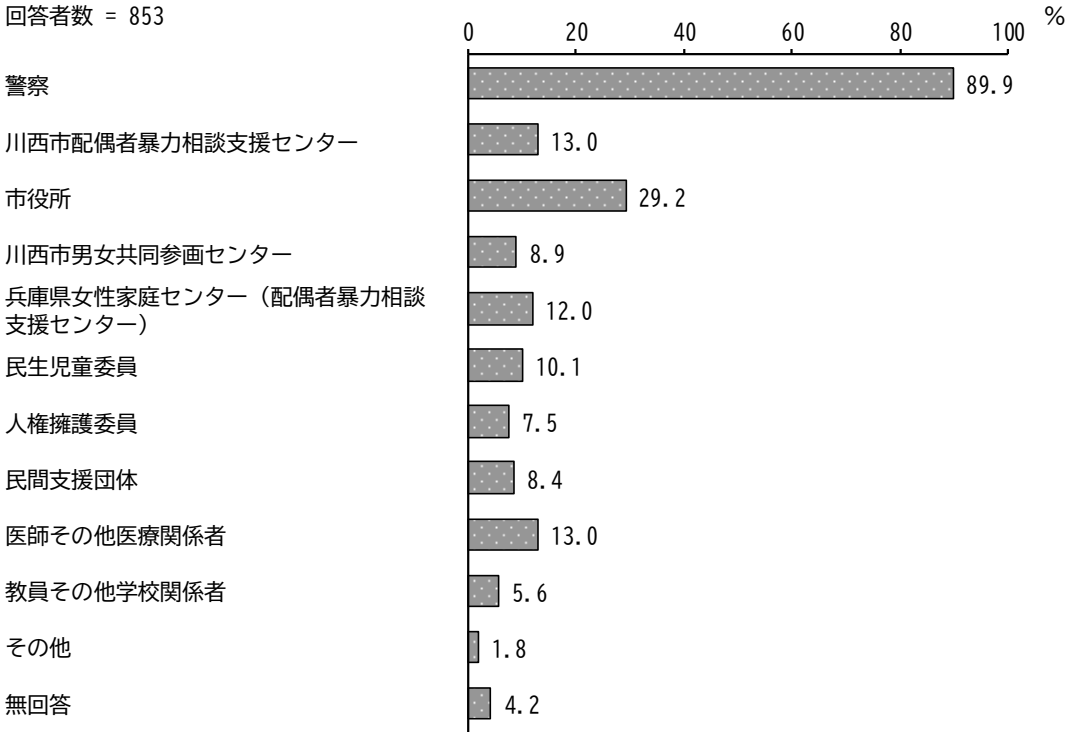
問 23　相談しなかった理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「相談しても無駄だと思ったから」の割合が 38.9%と最も高く、次いで「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」の割合が 33.3%、「相談するほどのことではないと思ったから」の割合が 29.6%となっています。



問 24　ＤＶ被害を受けたときに相談できる機関や関係者のうち、あなたが知っているものはどれですか。（あてはまるものすべてに○）

「警察」の割合が 89.9%と最も高く、次いで「市役所」の割合が 29.2%、「川西市配偶者暴力相談支援センター」、「医師その他医療関係者」の割合が 13.0%となっています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、女性で「兵庫県女性家庭センター（配偶者暴力相談支援センター）」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	警察	川西市配偶者暴力相談支援センター	市役所	川西市男女共同参画センター	兵庫県女性家庭センター（配偶者暴力相談支援センター）	民生児童委員	人権擁護委員	民間支援団体	医師その他医療関係者	教員その他学校関係者	その他	無回答
全　体	853	89.9	13.0	29.2	8.9	12.0	10.1	7.5	8.4	13.0	5.6	1.8	4.2
女性	500	90.6	14.0	27.0	7.6	17.6	9.8	6.2	8.6	15.6	5.6	1.8	4.0
男性	339	90.3	11.8	32.7	10.6	3.8	10.6	9.4	8.3	9.1	5.6	1.8	3.2

【性別（前回比較）】

性別で前回調査と比較すると、女性、男性ともに「兵庫県女性家庭センター（配偶者暴力相談支援センター）」「人権擁護委員」の割合が減少しています。

単位：％

区分	回答者数（件）	警察	川西市配偶者暴力相談支援センター	市役所	川西市男女共同参画センター	兵庫県女性家庭センター（配偶者暴力相談支援センター）	民生児童委員	人権擁護委員	民間支援団体	医師その他医療関係者	教員その他学校関係者	その他	無回答
女性（令和４年度調査）	500	90.6	14.0	27.0	7.6	17.6	9.8	6.2	8.6	15.6	5.6	1.8	4.0
女性（平成 28 年度調査）	514	87.9	－	26.5	9.5	22.6	9.5	11.5	9.5	13.8	4.3	1.2	4.1
男性（令和４年度調査）	339	90.3	11.8	32.7	10.6	3.8	10.6	9.4	8.3	9.1	5.6	1.8	3.2
男性（平成 28 年度調査）	351	87.2	－	28.2	8.8	9.4	9.4	17.1	4.3	7.1	6.0	2.3	4.0

※平成 28 年度調査では「川西市配偶者暴力相談支援センター」の選択肢はありません。

【問 19　あなたは、配偶者やパートナー、交際相手からＤＶまたはデートＤＶを受けたことがありますか。（どちらか１つに○）】

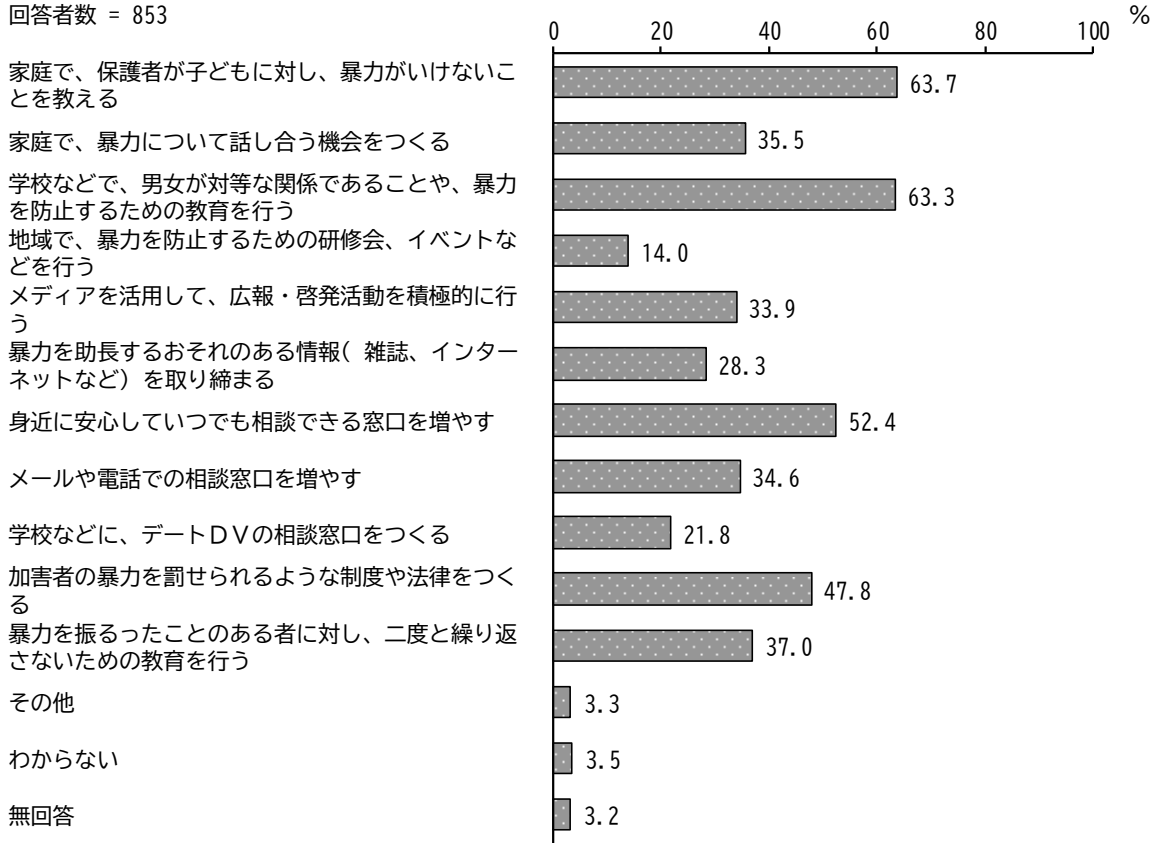
問 19 あなたは、配偶者やパートナー、交際相手からＤＶまたはデートＤＶを受けたことがありますか。（どちらか１つに○）にみると、他に比べ、あるで「兵庫県女性家庭センター（配偶者暴力相談支援センター）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	警察	川西市配偶者暴力相談支援センター	市役所	川西市男女共同参画センター	兵庫県女性家庭センター（配偶者暴力相談支援センター）	民生児童委員	人権擁護委員	民間支援団体	医師その他医療関係者	教員その他学校関係者	その他	無回答
全　体	853	89.9	13.0	29.2	8.9	12.0	10.1	7.5	8.4	13.0	5.6	1.8	4.2
ある	76	76.3	14.5	19.7	13.2	18.4	3.9	7.9	7.9	9.2	3.9	2.6	10.5
ない	755	92.2	12.7	30.6	8.6	11.4	10.7	7.3	8.6	13.6	5.8	1.7	2.6

問 25　あなたは、デートＤＶをなくすためには、どうしたらよいと思いますか。
（あてはまるものすべてに○）

「家庭で、保護者が子どもに対し、暴力がいけないことを教える」の割合が 63.7%と最も高く、次いで「学校などで、男女が対等な関係であることや、暴力を防止するための教育を行う」の割合が 63.3%、「身近に安心していつでも相談できる窓口を増やす」の割合が 52.4%となっています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、女性で「暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う」「身近に安心していつでも相談できる窓口を増やす」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	家庭で、保護者が子どもに対し、暴力がいけないことを教える	家庭で、暴力について話し合う機会をつくる	学校などで、男女が対等な関係であることや、暴力を防止するための教育を行う	地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う	メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、インターネットなど）を取り締まる	身近に安心していつでも相談できる窓口を増やす
全　体	853	63.7	35.5	63.3	14.0	33.9	28.3	52.4
女性	500	66.4	37.6	67.6	12.6	36.8	30.8	57.8
男性	339	59.3	33.0	58.1	16.2	30.7	25.4	45.1

区分	メールや電話での相談窓口を増やす	学校などに、デートDVの相談窓口をつくる	加害者の暴力を罰せられるような制度や法律をつくる	暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う	その他	わからない	無回答
全　体	34.6	21.8	47.8	37.0	3.3	3.5	3.2
女性	39.4	22.8	51.0	42.8	2.6	2.0	3.2
男性	28.0	20.6	43.4	28.3	4.4	5.6	2.4

【問 19　あなたは、配偶者やパートナー、交際相手からＤＶまたはデートＤＶを受けたことがありますか。（どちらか１つに○）】

問 19 あなたは、配偶者やパートナー、交際相手からＤＶまたはデートＤＶを受けたことがありますか。（どちらか１つに○）にみると、他に比べ、あるで「暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う」の割合が高くなっています。

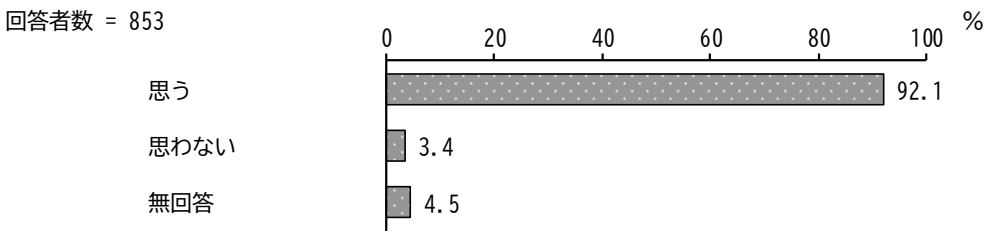
単位：％

区分	回答者数（件）	家庭で、保護者が子どもに対し、暴力がいけないことを教える	家庭で、暴力について話し合う機会をつくる	学校などで、男女が対等な関係であることや、暴力を防止するための教育を行う	地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う	メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、インターネットなど）を取り締まる	身近に安心していつでも相談できる窓口を増やす
全　体	853	63.7	35.5	63.3	14.0	33.9	28.3	52.4
ある	76	55.3	39.5	64.5	18.4	35.5	30.3	42.1
ない	755	65.0	35.5	64.2	13.5	34.4	28.2	53.9

区分	メールや電話での相談窓口を増やす	学校などに、デートＤＶの相談窓口をつくる	加害者の暴力を罰せられるような制度や法律をつくる	暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う	その他	わからない	無回答
全　体	34.6	21.8	47.8	37.0	3.3	3.5	3.2
ある	31.6	25.0	38.2	50.0	6.6	6.6	3.9
ない	35.5	21.6	49.8	36.6	2.9	3.2	2.0

問 26　セクシュアル・ハラスメント（セクハラ、性的嫌がらせ）やドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）は、男女互いの性に対する人権侵害だと思いますか。
（どちらか１つに○）

「思う」の割合が 92.1%、「思わない」の割合が 3.4%となっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数（件）	思う	思わない	無回答
全　体	853	92.1	3.4	4.5
女性	500	93.0	3.0	4.0
男性	339	91.2	4.1	4.7

【性別・年代別】

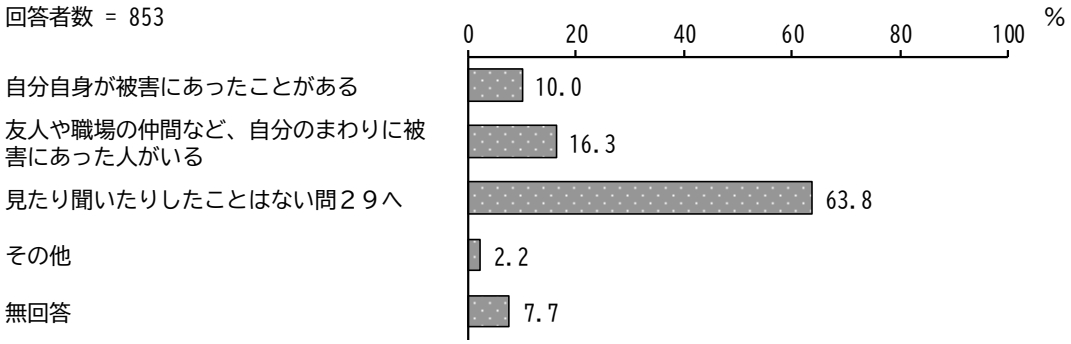
性別・年代別にみると、他に比べ、女性 30 歳代で「思う」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	思う	思わない	無回答
全　体	853	92.1	3.4	4.5
女性　10 歳代	8	100.0	－	－
女性　20 歳代	23	91.3	4.3	4.3
女性　30 歳代	52	98.1	1.9	－
女性　40 歳代	66	93.9	4.5	1.5
女性　50 歳代	87	94.3	3.4	2.3
女性　60 歳代	92	93.5	1.1	5.4
女性　70 歳代	113	92.9	2.7	4.4
女性　80 歳以上	59	84.7	5.1	10.2
男性　10 歳代	7	100.0	－	－
男性　20 歳代	16	93.8	6.3	－
男性　30 歳代	27	96.3	3.7	－
男性　40 歳代	54	92.6	3.7	3.7
男性　50 歳代	59	88.1	11.9	－
男性　60 歳代	52	96.2	1.9	1.9
男性　70 歳代	79	93.7	1.3	5.1
男性　80 歳以上	44	77.3	2.3	20.5

問 27　あなたやあなたのまわりの方が、学校・職場・地域活動等でセクシュアル・ハラスメントの被害にあわれたことがありますか。（あてはまるもの１つに○）

「見たり聞いたりしたことはない」の割合が 63.8%と最も高く、次いで「友人や職場の仲間など、自分のまわりに被害にあった人がいる」の割合が 16.3%、「自分自身が被害にあったことがある」の割合が 10.0%となっています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「見たり聞いたりしたことはない」の割合が、女性で「自分自身が被害にあったことがある」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	自分自身が被害にあったことがある	友人や職場の仲間など、自分のまわりに被害にあった人がいる	見たり聞いたりしたことはない	その他	無回答
全　体	853	10.0	16.3	63.8	2.2	7.7
女性	500	15.6	14.4	60.0	2.0	8.0
男性	339	1.8	18.9	70.5	2.7	6.2

【性別（前回比較）】

性別で前回調査と比較すると、女性では大きな差はみられません。

男性で「友人や職場の仲間など、自分のまわりに被害にあった人がいる」の割合が増加しています。

単位：%

区分	回答者数（件）	自分自身が被害にあったことがある	友人や職場の仲間など、自分のまわりに被害にあった人がいる	見たり聞いたりしたことはない	その他	無回答
女性（令和４年度調査）	500	15.6	14.4	60.0	2.0	8.0
女性（平成 28 年度調査）	514	16.3	10.3	63.8	0.6	8.0
男性（令和４年度調査）	339	1.8	18.9	70.5	2.7	6.2
男性（平成 28 年度調査）	351	2.0	13.7	72.9	1.1	5.4

【性別・年代別】

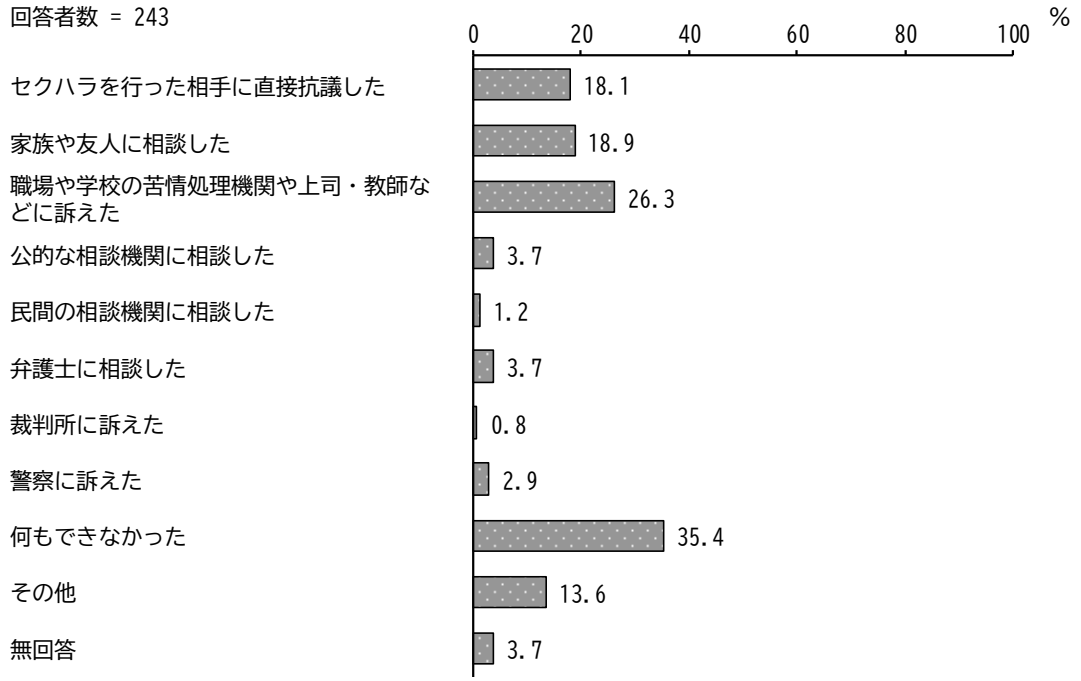
性別・年代別にみると、他に比べ、男性 20 歳代で「見たり聞いたりしたことはない」の割合が、女性 20 歳代で「自分自身が被害にあったことがある」の割合が、女性 30 歳代で「自分自身が被害にあったことがある」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	自分自身が被害にあったことがある	友人や職場の仲間など、自分のまわりに被害にあった人がいる	見たり聞いたりしたことはない	その他	無回答
全　体	853	10.0	16.3	63.8	2.2	7.7
女性　10 歳代	8	－	25.0	62.5	－	12.5
女性　20 歳代	23	26.1	8.7	60.9	－	4.3
女性　30 歳代	52	25.0	19.2	50.0	－	5.8
女性　40 歳代	66	22.7	19.7	53.0	1.5	3.0
女性　50 歳代	87	23.0	14.9	57.5	1.1	3.4
女性　60 歳代	92	14.1	18.5	60.9	2.2	4.3
女性　70 歳代	113	6.2	12.4	69.0	2.7	9.7
女性　80 歳以上	59	6.8	1.7	61.0	5.1	25.4
男性　10 歳代	7	－	14.3	85.7	－	－
男性　20 歳代	16	－	12.5	87.5	－	－
男性　30 歳代	27	3.7	22.2	63.0	7.4	3.7
男性　40 歳代	54	1.9	25.9	66.7	1.9	3.7
男性　50 歳代	59	3.4	16.9	74.6	1.7	3.4
男性　60 歳代	52	－	26.9	71.2	1.9	－
男性　70 歳代	79	1.3	15.2	73.4	2.5	7.6
男性　80 歳以上	44	2.3	11.4	59.1	4.5	22.7

問 28　あなたやあなたのまわりの方がセクシュアル・ハラスメントの被害にあわれたとき、あなたはどのような対応をしましたか。（あてはまるものすべてに○）

「何もできなかった」の割合が 35.4%と最も高く、次いで「職場や学校の苦情処理機関や上司・教師などに訴えた」の割合が 26.3%、「家族や友人に相談した」の割合が 18.9%となっています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、男性で「職場や学校の苦情処理機関や上司・教師などに訴えた」の割合が、女性で「何もできなかった」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	セクハラを行った相手に直接抗議した	家族や友人に相談した	職場や学校の苦情処理機関や上司・教師などに訴えた	公的な相談機関に相談した	民間の相談機関に相談した	弁護士に相談した	裁判所に訴えた	警察に訴えた	何もできなかった	その他	無回答
全　体	243	18.1	18.9	26.3	3.7	1.2	3.7	0.8	2.9	35.4	13.6	3.7
女性	160	17.5	20.6	21.3	3.8	1.9	3.1	0.6	1.9	40.6	11.9	3.1
男性	79	17.7	16.5	36.7	3.8	－	5.1	1.3	5.1	24.1	17.7	5.1

【性別（前回比較）】

性別で前回調査と比較すると、女性で「何もできなかった」の割合が増加しています。一方、「家族や友人に相談した」の割合が減少しています。

男性で「職場や学校の苦情処理機関や上司・教師などに訴えた」の割合が増加しています。

単位：％

区分	回答者数（件）	セクハラを行った相手に直接抗議した	家族や友人に相談した	職場や学校の苦情処理機関や上司・教師などに訴えた	公的な相談機関に相談した	民間の相談機関に相談した	弁護士に相談した	裁判所に訴えた	警察に訴えた	何もできなかった	その他	無回答
女性（令和４年度調査）	160	17.5	20.6	21.3	3.8	1.9	3.1	0.6	1.9	40.6	11.9	3.1
女性(平成 28 年度調査)	145	15.9	32.4	17.9	6.2	2.1	0.7	0.0	3.4	34.5	9.0	0.7
男性（令和４年度調査）	79	17.7	16.5	36.7	3.8	－	5.1	1.3	5.1	24.1	17.7	5.1
男性(平成 28 年度調査)	76	14.5	21.1	26.3	5.3	1.3	5.3	0.0	5.3	23.7	10.5	3.9

問 29　次のような内容は、小学校、中学校、高校のうち、どの時期に学校で学んでおくべきだと考えますか。

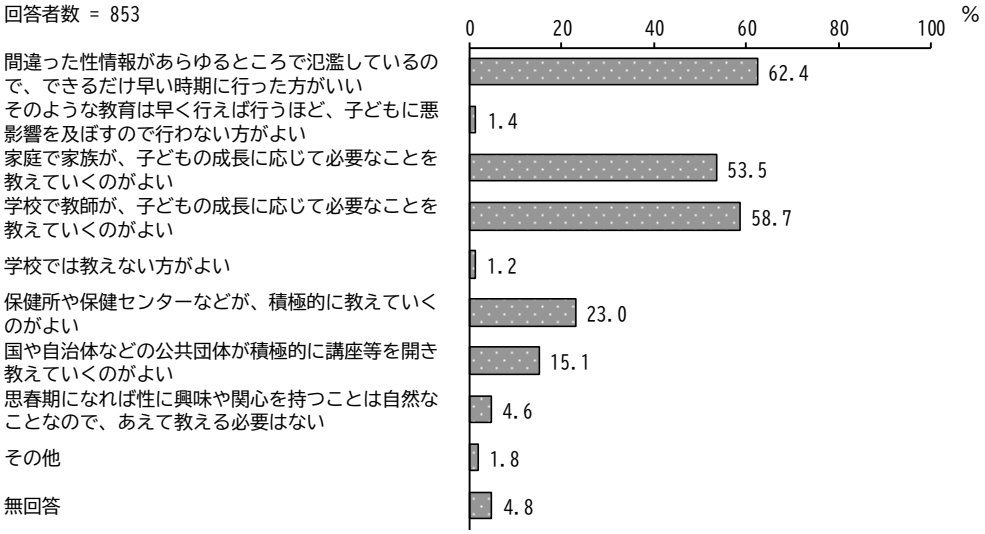
『①　男女平等について』『⑤　男女のからだのしくみ』で「小学校」の割合が高くなっています。また、『①　男女平等について』『⑤　男女のからだのしくみ』を除いた項目で「中学校」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	小学校	中学校	高校	学校で教える必要はない	無回答
①　男女平等について	853	76.9	14.1	1.5	2.1	5.4
②　デートＤＶについて	853	22.9	55.5	10.6	4.1	7.0
③　セクハラ、性暴力について	853	27.2	52.3	11.5	2.5	6.6
④　性の不安や悩みについて	853	34.7	51.3	5.3	2.3	6.3
⑤　男女のからだのしくみ	853	66.2	25.8	1.8	0.7	5.5
⑥　妊娠のしくみ	853	43.4	45.6	3.6	1.6	5.7
⑦　避妊の方法	853	21.2	58.0	10.9	3.9	6.0
⑧　人工妊娠中絶	853	15.6	56.4	13.8	8.4	5.7
⑨　HIV ／エイズ、性感染症	853	19.1	57.3	14.1	3.3	6.2
⑩　性的マイノリティ（LGBT など）	853	29.9	45.0	12.5	5.5	7.0

問 30　ユネスコによる「性教育国際ガイドライン」では、人間関係、人間の発達、性行動など６つの重要概念を学習目標として示し、子どもの発達段階に応じて教育することを提唱しています。あなたは性教育についてどのように思われますか。
（あてはまるものすべてに○）

「間違った性情報があらゆるところで氾濫しているので、できるだけ早い時期に行った方がいい」の割合が 62.4%と最も高く、次いで「学校で教師が、子どもの成長に応じて必要なことを教えていくのがよい」の割合が 58.7%、「家庭で家族が、子どもの成長に応じて必要なことを教えていくのがよい」の割合が 53.5%となっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：%

区分	回答者数（件）	間違った性情報があらゆるところで氾濫しているので、できるだけ早い時期に行った方がいい	そのような教育は早く行えば行うほど、子どもに悪影響を及ぼすので行わない方がよい	家庭で家族が、子どもの成長に応じて必要なことを教えていくのがよい	学校で教師が、子どもの成長に応じて必要なことを教えていくのがよい	学校では教えない方がよい
全　体	853	62.4	1.4	53.5	58.7	1.2
女性	500	64.6	1.4	54.4	59.0	0.2
男性	339	59.3	1.5	52.5	58.7	2.4

区分	保健所や保健センターなどが、積極的に教えていくのがよい	国や自治体などの公共団体が積極的に講座等を開き教えていくのがよい	思春期になれば性に興味や関心を持つことは自然なことなので、あえて教える必要はない	その他	無回答
全　体	23.0	15.1	4.6	1.8	4.8
女性	23.2	15.2	4.4	1.4	5.0
男性	23.0	14.7	5.0	2.4	3.2

【性別（前回比較）】

性別で前回調査と比較すると、女性で「間違った性情報があらゆるところで氾濫しているので、できるだけ早い時期に行った方がいい」の割合が増加しています。一方、「家庭で家族が、子どもの成長に応じて必要なことを教えていくのがよい」の割合が減少しています。

男性で「間違った性情報があらゆるところで氾濫しているので、できるだけ早い時期に行った方がいい」「保健所や保健センターなどが、積極的に教えていくのがよい」の割合が増加しています。一方、「思春期になれば性に興味や関心を持つことは自然なことなので、あえて教える必要はない」の割合が減少しています。

単位：％

区分	回答者数（件）	間違った性情報があらゆるところで氾濫しているので、できるだけ早い時期に行った方がいい	そのような教育は早く行えば行うほど、子どもに悪影響を及ぼすので行わない方がよい	家庭で家族が、子どもの成長に応じて必要なことを教えていくのがよい	学校で教師が、子どもの成長に応じて必要なことを教えていくのがよい	学校では教えない方がよい
女性（令和４年度調査）	500	64.6	1.4	54.4	59.0	0.2
女性（平成 28 年度調査）	514	48.2	2.9	62.1	63.4	1.0
男性（令和４年度調査）	339	59.3	1.5	52.5	58.7	2.4
男性（平成 28 年度調査）	351	48.1	4.3	51.6	57.5	3.1

区分	保健所や保健センターなどが、積極的に教えていくのがよい	国や自治体などの公共団体が積極的に講座等を開き教えていくのがよい	思春期になれば性に興味や関心を持つことは自然なことなので、あえて教える必要はない	その他	無回答
女性（令和４年度調査）	23.2	15.2	4.4	1.4	5.0
女性（平成 28 年度調査）	20.2	12.3	4.3	1.9	4.3
男性（令和４年度調査）	23.0	14.7	5.0	2.4	3.2
男性（平成 28 年度調査）	16.8	14.2	13.1	2.6	2.0

9　男女共同参画施策について

問 31　次の「ことがら」や「ことば」を見たり聞いたりしたことがありますか。
（①～⑭のそれぞれについて、１～３の中であてはまるもの１つに○）

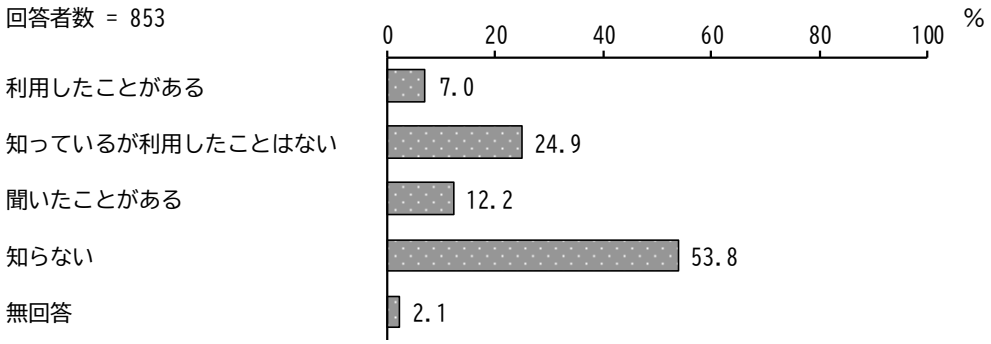
『⑧　ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス)』で「よく知っている」の割合が高くなっています。また、『⑤　ポジティブ・アクション（積極的改善措置)』で「知らない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	よく知っている	聞いたことがある	知らない	無回答
①　第３次川西市男女共同参画プラン（2013 年策定）	853	0.9	20.6	74.0	4.5
②　川西市男女共同参画推進条例（2015 年制定）	853	0.8	24.5	69.3	5.4
③　育児・介護休業法（1992 年施行）	853	18.4	51.3	25.4	4.8
④　女性活躍推進法（2016 年施行）	853	5.3	35.5	53.8	5.4
⑤　ポジティブ・アクション（積極的改善措置）	853	1.5	12.0	80.8	5.7
⑥　ジェンダーギャップ指数	853	3.4	28.1	62.4	6.1
⑦　ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	853	21.5	40.1	32.2	6.2
⑧　ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）	853	47.0	43.1	5.3	4.6
⑨　デートＤＶ	853	24.6	44.4	26.3	4.7
⑩　「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」（通称：ＤＶ防止法）	853	15.5	57.2	22.5	4.8
⑪　マタニティ・ハラスメント（マタハラ）	853	31.3	53.2	10.9	4.6
⑫　セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）	853	31.5	49.5	14.3	4.7
⑬　川西市パートナーシップ宣誓制度（2021 年導入）	853	2.8	20.9	71.2	5.2
⑭　LGBT（レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダーの頭文字を並べた呼称）	853	32.4	43.0	20.2	4.5

問 32　あなたは、複合施設「パレットかわにし（１階）」にある川西市男女共同参画センターを利用したことがありますか。または、ご存じですか。
（あてはまるもの１つに○）

「知らない」の割合が 53.8%と最も高く、次いで「知っているが利用したことはない」の割合が 24.9%、「聞いたことがある」の割合が 12.2%となっています。



【性別】

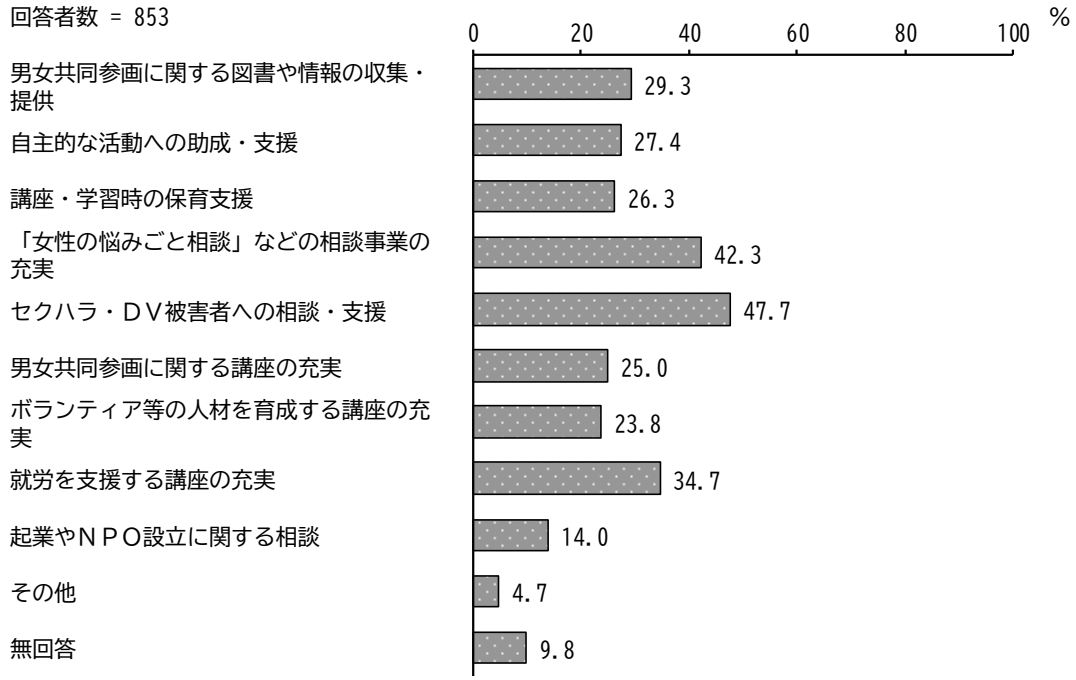
性別にみると、他に比べ、男性で「知らない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	利用したことがある	知っているが利用したことはない	聞いたことがある	知らない	無回答
全　体	853	7.0	24.9	12.2	53.8	2.1
女性	500	9.4	29.4	12.8	46.2	2.2
男性	339	3.5	18.6	11.8	65.2	0.9

問 33　本市には男女共同参画を進めていくための拠点として川西市男女共同参画センターがありますが、あなたは、この男女共同参画センターにどのようなことを希望しますか。（あてはまるものすべてに○）

「セクハラ・ＤＶ被害者への相談・支援」の割合が 47.7%と最も高く、次いで「『女性の悩みごと相談』などの相談事業の充実」の割合が 42.3%、「就労を支援する講座の充実」の割合が 34.7%となっています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、女性で「『女性の悩みごと相談』などの相談事業の充実」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	男女共同参画に関する図書や情報の収集・提供	自主的な活動への助成・支援	講座・学習時の保育支援	「女性の悩みごと相談」などの相談事業の充実	セクハラ・ＤＶ被害者への相談・支援	男女共同参画に関する講座の充実	ボランティア等の人材を育成する講座の充実	就労を支援する講座の充実	起業やＮＰＯ設立に関する相談	その他	無回答
全　体	853	29.3	27.4	26.3	42.3	47.7	25.0	23.8	34.7	14.0	4.7	9.8
女性	500	27.8	25.8	27.2	50.6	48.8	25.2	25.8	37.2	13.8	2.8	10.4
男性	339	32.4	30.7	24.8	30.7	46.9	25.1	21.5	31.0	14.7	7.7	7.4

【性別（前回比較）】

性別で前回調査と比較すると、女性で「男女共同参画に関する図書や情報の収集・提供」「『女性の悩みごと相談』などの相談事業の充実」「セクハラ・ＤＶ被害者への相談・支援」「男女共同参画に関する講座の充実」の割合が増加しています。

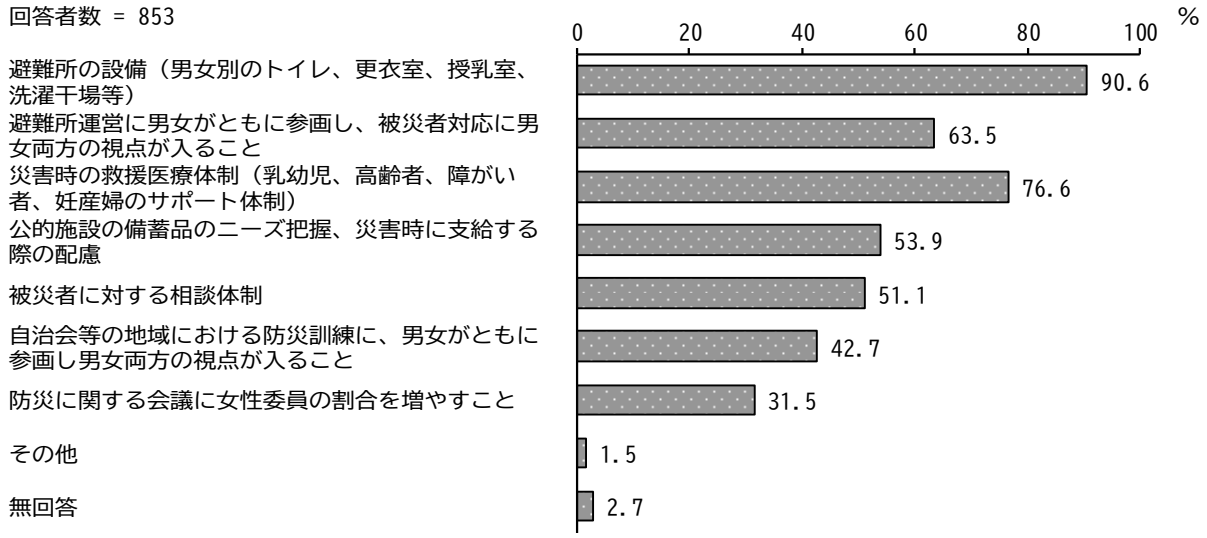
男性で「講座・学習時の保育支援」「『女性の悩みごと相談』などの相談事業の充実」「セクハラ・ＤＶ被害者への相談・支援」の割合が増加しています。一方、「ボランティア等の人材を育成する講座の充実」の割合が減少しています。

単位：％

区分	回答者数（件）	男女共同参画に関する図書や情報の収集・提供	自主的な活動への助成・支援	講座・学習時の保育支援	「女性の悩みごと相談」などの相談事業の充実	セクハラ・ＤＶ被害者への相談・支援	男女共同参画に関する講座の充実	ボランティア等の人材を育成する講座の充実	就労を支援する講座の充実	起業やＮＰＯ設立に関する相談	その他	無回答
女性（令和４年度調査）	500	27.8	25.8	27.2	50.6	48.8	25.2	25.8	37.2	13.8	2.8	10.4
女性（平成 28 年度調査）	514	20.4	27.0	23.7	41.2	41.1	19.5	26.3	33.9	10.7	3.3	12.3
男性（令和４年度調査）	339	32.4	30.7	24.8	30.7	46.9	25.1	21.5	31.0	14.7	7.7	7.4
男性（平成 28 年度調査）	351	32.5	33.3	18.8	25.6	35.6	27.9	26.8	30.2	10.8	4.6	11.1

問 34　あなたは、防災・災害対策において、性別に配慮した対応で必要だと思うものはありますか。（あてはまるものすべてに○）

「避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、授乳室、洗濯干場等）」の割合が 90.6%と最も高く、次いで「災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障がい者、妊産婦のサポート体制）」の割合が 76.6%、「避難所運営に男女がともに参画し、被災者対応に男女両方の視点が入ること」の割合が 63.5%となっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

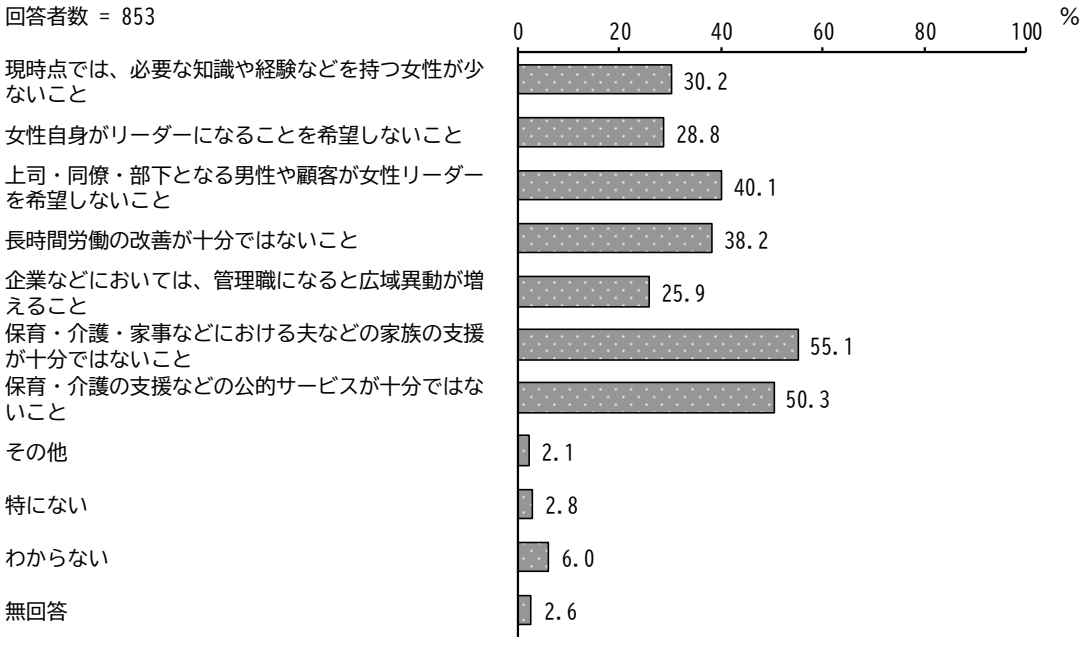
単位：％

区分	回答者数（件）	避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、授乳室、洗濯干場等）	避難所運営に男女がともに参画し、被災者対応に男女両方の視点が入ること	災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障がい者、妊産婦のサポート体制）	公的施設の備蓄品のニーズ把握、災害時に支給する際の配慮
全　体	853	90.6	63.5	76.6	53.9
女性	500	93.0	64.4	78.6	55.8
男性	339	88.2	63.1	74.6	51.9

区分	被災者に対する相談体制	自治会等の地域における防災訓練に、男女がともに参画し男女両方の視点が入ること	防災に関する会議に女性委員の割合を増やすこと	その他	無回答
全　体	51.1	42.7	31.5	1.5	2.7
女性	52.6	41.4	31.4	1.4	2.4
男性	49.6	45.4	31.9	1.5	1.8

問 35　あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」の割合が 55.1%と最も高く、次いで「保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと」の割合が 50.3%、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」の割合が 40.1%となっています。



【性別】

性別にみると、他に比べ、女性で「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」の割合が、男性で「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」の割合が高くなっています。

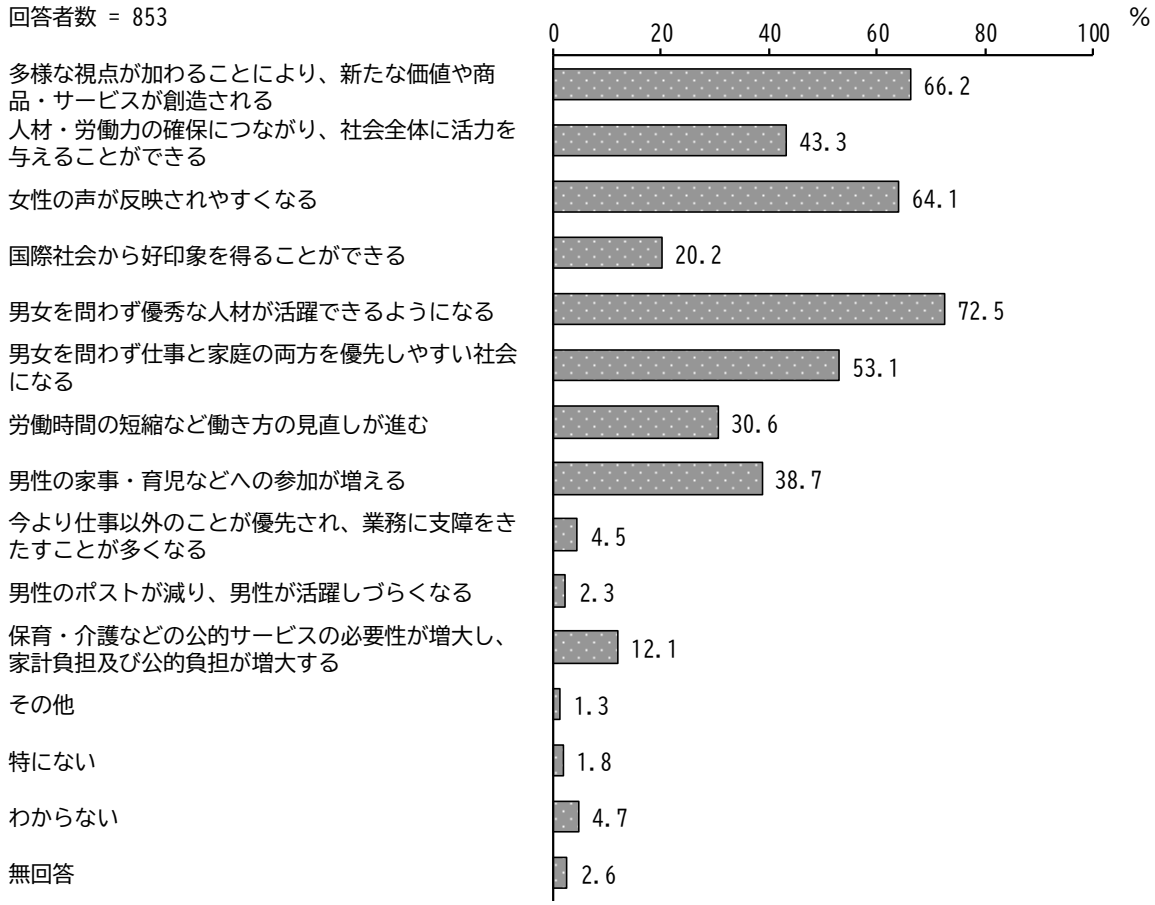
単位：％

区分	回答者数（件）	現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと	女性自身がリーダーになることを希望しないこと	上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと	長時間労働の改善が十分ではないこと	企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること
全　体	853	30.2	28.8	40.1	38.2	25.9
女性	500	30.6	26.0	47.6	41.0	27.2
男性	339	30.4	34.2	29.8	35.4	25.1

区分	保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと	保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと	その他	特にない	わからない	無回答
全　体	55.1	50.3	2.1	2.8	6.0	2.6
女性	60.0	54.4	1.2	2.4	6.8	1.8
男性	49.6	46.0	3.5	3.2	5.0	0.9

問 36　あなたは、政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「男女を問わず優秀な人材が活躍できるようになる」の割合が 72.5%と最も高く、次いで「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」の割合が 66.2%、「女性の声が反映されやすくなる」の割合が 64.1%となっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数（件）	多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される	人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる	女性の声が反映されやすくなる	国際社会から好印象を得ることができる	男女を問わず優秀な人材が活躍できるようになる	男女を問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる	労働時間の短縮など働き方の見直しが進む
全　体	853	66.2	43.3	64.1	20.2	72.5	53.1	30.6
女性	500	65.4	40.8	68.4	17.2	73.2	55.0	31.6
男性	339	69.3	48.1	59.9	25.1	73.5	51.6	30.1

区分	男性の家事・育児などへの参加が増える	今より仕事以外のことが優先され、業務に支障をきたすことが多くなる	男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる	保育・介護などの公的サービスの必要性が増大し、家計負担及び公的負担が増大する	その他	特にない	わからない	無回答
全　体	38.7	4.5	2.3	12.1	1.3	1.8	4.7	2.6
女性	41.8	3.8	1.6	11.8	1.2	1.4	5.2	2.0
男性	35.4	5.3	3.5	13.0	1.5	2.1	4.1	0.6

Ⅳ　自由意見

川西市の男女共同参画施策について、ご意見、ご要望等がございましたら、ご自由にお書きください。

（１）男女の地位

年齢	性別	自由意見
40 歳代	女性	まずは男女という単語が男性優位になっていると思います。いっそのこと別の単語におきかえてみては？ダイバーシティなど。
70 歳代	女性	日本はまだまだ男性社会です。少しずつ男性女性じゃなく一人の人間として意見が反映されることを望みます。
20 歳代	男性	男女平等は「男女の差が意識されない状態」のことだと思っています。無理やり数だけを平等にしても、それは真に平等では無いし実力や能力が反映されない歪な社会になってしまいます。また私は昔ながらの価値観や男らしさ女らしさを大事にしたいので、それらの価値観をさも古びた良くないものだと見做すような考え方には辟易しています。
30 歳代	男性	女性リーダーが増えることは良いことだと思いますが、能力や本人の希望以外(男女の割合や数の目標)で女性リーダーを増やすのはあまり意味がないと思います。
50 歳代	女性	会社員、会社経営、個人事業主としてあらゆる立場で仕事をしてみて、良い面、悪い面あらゆる面を経験してきました。男性と同じ仕事をするためには男性の３倍の成果をあげないと認められないという摩訶不思議なことも経験し、男女機会均等法が施行され 30 年以上経つのにこんなにも改善に時間がかかるものなのか、改善しようと本当に思っているのか？と疑ってしまうぐらいです。現在、問題となっていること（シングルマザーの貧困化・ＤＶ・パワハラ etc）は奉仕団体やボランティア団体などによって目の前の困りごとについては対処（こども食堂など）しているが、根本解決をしていかなければ日本の発展自体がないと思っています。根本解決のための意見交換・ディスカッションをする場が必要だと思いますし、それを進めるための責任者が仕事だからやっているというおざなりでなく、本当に解決していくという本気の方の元で、すすめていかれることを願っております。一市民ではありますが、私が出来ることがありましたらいつでもお声がけください。

年齢	性別	自由意見
50 歳代	男性	この政策の事を詳細に知らないので自由に記載するが、どちらかに偏った(主に女性の不利益改善)政策なのだろうか。もちろん女性の立場や環境をより良いものにする事には賛成だが、ハラスメントや雇用関係も女性だけが不利益を被っている訳では無いことは常に念頭に置いて、考えて欲しい。女性から男性に対してのものは表に出ないだけで陰湿なものが多いと感じるため、そういうのを無視しての議論や政策策定は避けて欲しい。
50 歳代	男性	「男」「女」という性別に囚われず、個人の能力を最大限活かせる世の中になれば良いと思います。ですので、何でもかんでも男女平等を理由に単に女性の割合を増やして、やってます感を出すのはナンセンスだと考えます。真の男女共同参画とは何か。性別という枠組みを超え、全ての人が活躍できる社会の実現を目指して頂きたいと思います。
80 歳以上	男性	男は仕事、女は家事という概念からぬけきらない私のような人間の意識改革はむずかしいですね。市の参画策に敬意を表します。
60 歳代	女性	男女の役割分担は、長年の日本の慣習の上に成り立っていて、短期間で意識を変えていくのはなかなか難しいと思う。小～高校の教育機会をふやすことも大切だと思うが、一番身近な学校での先生の状況を見ても、校長先生の男女比率、育休取得の割合など、説得力に欠けると言わざるを得ない。議員や、先生など、公の目立つところが積極的に見本を示していただきたいと思います。

（2）結婚と家庭生活

年齢	性別	自由意見
40 歳代	女性	若い世代だけでなく、どの世代にも男女平等(主に家庭内での家事育児の分担)について知る機会が増えていき、女性が仕事と家庭を両立しやすい社会になる事を望んでいます。

（3）子育て

年齢	性別	自由意見
50 歳代	男性	男女共同参画を進める上で、子育てしている女性のバックアップが必要であると強く考えます。特に幼稚園、保育園に経済的、空きがないため、社会に出られない人がかなりいます。まずはそのような問題を解決して欲しい。
30 歳代	女性	結婚し無職になると保育園に入れて仕事を始めるのは難しい。仕事を見つけるにも面接など子どもを預ける場所がいる。短時間のために夫側が仕事を休むのは会社の理解を得にくい。仕事内容や職種によって平等にできるところ、無理なところがある。夫婦間で平等と思う分担をしても周りの目、親世代の考え方の違い、理解不足でうまくいかないこともある。祖父母など近くで気軽に子どもを預けられる環境がないと買い物、通院、美容院などに行くのも大変。特に病院は子どもが静かにできないのを周りの目が冷たい。二人以上子どもを持ちたい人は何度も育休は取りにくい。
30 歳代	女性	子育て世代ですが、金銭的に余裕がなく、家計の足しにパートをしています。子育ての両立を考えると週５日のフルタイムは難しく希望に合う勤務条件がなかなかなく、職探しに苦労しました。勤務時間や、日数を増やした分、保育料が高くなるので短時間しか働けず、結果満足のいく収入を得られません。保育料無償の制度ありがたいですが”無償”でなく”援助”にすぎないので、わがままな意見ですが制度を充実させてほしいです。
30 歳代	女性	能力は性別や年齢ではなく、個人によって異なります。子育てなどでキャリアチェンジの多い女性が、希望すればどんなタイミングでも、能力を活かした仕事を得られる社会を希望します。また、全ての出産や子育てを控えた女性に対して、金銭的精神的なフォローが充実し、安心して子育てできる社会になることを希望します。
40 歳代	男性	働いている女性の意見を学童や保育所、市の運営にどんどん生かしてもらいたい。特に学童のシステムは保育所と比べて本当に働く家庭のためになっているのか？小学校の共働き家庭が市役所にもいるのでは？何も感じないのか不思議です。高齢者が多く、予算を優先してしまいがちですが、他市と差別化して、子育て納税世帯にもっと来てもらわないと市は更に衰退します。当事者意見を取り入れて、よりよいシステムを柔軟に導入してほしいです。

（4）介護

年齢	性別	自由意見
50 歳代	男性	将来の親の介護(別居)が心配です。行政のサポートがさらに手厚くなることを希望します。
50 歳代	女性	それ程重い介護ではありませんが、親をみながら仕事を続けるのはたいへんです。 自分のやりたいことや用事は、なかなかできません。わたしはまだ、恵まれている方だと思いますが、それでもいろいろ考えてしまい、心も暗くなりがちです。男女問わず独身だと特に介護はつらくなると思います。相談できたり、自分を表現したり思いを共有し合える場所があったらうれしいです。
80 歳以上	男性	此れから高齢者が益々多く成る為市も大変と思いますがどの様にすれば良いか指導をして欲しい。

（5）仕事

年齢	性別	自由意見
30 歳代	男性	多くの会社では男性が育児の為に休みがとりにくいが夫婦が正社員で働いている場合は、女性（妻）が休みを取る機会が多い。男性が休み（育児の為）を取ろうにも、会社（上司）の理解がない。育児には女性に負担が多くなっている原因と思う。会社（役所を含む）側に理解が足りない。管理職の方への教育も必要と思います。
40 歳代	男性	パート・アルバイトでも多様な雇用形態を採用してほしいです。（妻が、育児後、仕事復帰することを考えているため）

（6）ワーク・ライフ・バランス

年齢	性別	自由意見
40 歳代	女性	男女共同参画ですが、機会の平等を主要とされる場合が多いように感じます。その機会というのが、男性の主眼による機会なので、逆に女性にとって逆差別になっている（本人が望まないのに出世し、仕事が増え、子育てが困難になる。家庭は男女平等とはなかなかいかないので）場合も生じているように思えます。
60 歳代	女性	定年退職後の男性の活躍の場として地域のボランティア活動を推進してはいかがでしょうか。街の美化活動等、誰もができて、地域の人との交流につながります。街がきれいになれば治安も良くなると思います。

（7）性と人権

年齢	性別	自由意見
20 歳代	男性	男性が外に仕事に行き、女性は家で家事を行うという考え方は随分古く感じるので、その様な固定概念を早急に捨て男女関係なくコミュニケーションを取り、多種多様な意見を取り入れるようにする必要があると思います。上記のような固定概念を捨てる為には、小学校の早いうちから男女平等を主体とし教育していく必要があると思います。また、TV やその他媒体にてそれらを面白おかしく取り上げられている場面も時折見かけますが、それらの情報に惑わされないようにする為にも、正しい認識を持てるよう、教育を充実させる必要があると思います。
50 歳代	女性	住んでいる家の隣のご主人より暴言「馬鹿、アホ、死ね」など受けています。定年退職後、暇ですることがなく女性をからかってストレスを発散しているのです。ホースで水をかけられたこともあります。袋小路、行き止まりなのを良い事に待ち伏せ、通ったときに雨戸の音で驚かすなどの嫌がらせ、ベランダをじっと見上げるなどのいじめもあります。隣の奥さんが「ナイフで刺して殺してやりたい。」と言っていました。この人はノイローゼになって引っ越しました。男性による女性への暴言、嫌がらせ、いじめ、やめてほしいです。
60 歳代	女性	昔ながらの意見になりますが、私は男性と女性では体格の違い、力の違い、成長の過程それぞれ違うように思います。子どものころはそうした違いを当たり前のように受け入れて育ち今にいたります。男は仕事、女は育児。結婚が決まったら仕事をやめる等ごく自然な流れでした。長年それを続けておればごく自然だとおもえています。今の時代には合っていませんが。
70 歳代	女性	女性問題について女性が被害にある事のみ強調されがちだが、痴漢冤罪事件など、女性が加害者となって犯罪を行っているケースも多々あり男性に対するＰＲ、注意喚起を行う必要がある。本当の男女平等の世界を想像してほしい。※痴漢冤罪に関しては無実の男性ややってないが示談金（100 万程度）を払った男性も多くこれを商売にしている女性もいる。

年齢	性別	自由意見
40 歳代	男性	ジェンダーギャップという欧米中心で作られた基準に右往左往している。異なる指標では日本が高い場合もあるのに、それは提示しない。例えば国連の女性の幸福度では、日本は常に１位などの上位。ジェンダーギャップ指数と女性の幸福度について、その矛盾をまず説明できなければ税金の無駄。働きたいと希望する女性もいれば、子育てに専念したいという女性もいる。男女共同参画は片方の声を拡大させているだけで対立を先鋭化しているだけ。例えばヨーロッパでは女性が小説を書くことさえ許されていなかったのに対して、日本では紫式部が世界最古の女流作家。また神話でも最上級神がアマテラスで女性とされている。そのように女性は女性、男性は男性としてそれぞれの違いを認め、たがいに尊重するような状況と、前述したような欧州とは異なる歴史。それを知っていての前提でなければ、なんでも欧米の真似をしていては意味がない。歴史・文化そのものが違います。共産主義ソ連のように女性兵士が最前線で戦うような社会をめざすならばやみくもに男女平等を掲げればよい。
50 歳代	男性	人権、男女平等は良いですが、男女の身体の違いや機能は小さい頃から教えることが必要。 男女の権利は同じはず、権利の使用はそれぞれが考えて行えば良いが、誰かが我まんする必要ではないかと思います。
70 歳代	男性	男性女性と区別せず一人の人として考えればよい。

（８）男女共同参画政策

年齢	性別	自由意見
30 歳代	女性	働いてないけれど能力のある女性はたくさんいるが、保育園に入れるために大変だったり、小１の壁で結局辞めざるを得なかったりする声をたくさん聞きます。一時保育すら利用しづらい現状、本当に男女共同参画社会を目指しているのか、個人的に疑問です。子どもを増やしたいのか女性を働かせたいのか、どちらか片方でも大変なのに、２つともやろうとするから中途半端になるのでは？明石は極端すぎるがあれくらい思い切ってやってみる必要もそろそろあるのではないでしょうか。
40 歳代	女性	私は公務員として 23 歳の時から働き、結婚・出産（３度）を経て、現在も仕事を続けています。公務員ですので、様々な法律のおかげで、出産後も育児休暇を取らせてもらえて続ける事が出来ていますが、まだまだ民間企業では子どもを産んで休み続けることが困難な場合もあると思います。また、出産後仕事との両立は皆さん精神的にも肉体的にもかなりきついと思います。もっと子持ちの女性に優しい社会にしていただきたいです。
50 歳代	女性	地域から市全体、そして、県国へと少しずつでも女性の活躍できる場が増えるといいと思います。これからは男女関係なく自律していける社会が理想です。日々の業務これからも頑張っていただけることを望んでいます。
70 歳代	女性	男女共同参画事業に関してはかなり進歩してきていると思うが、他市と比べると積極性、実施性において見劣りする気がする。住民の啓発活動をもっとすすめるべきではないでしょうか。
80 歳以上	男性	市が男女共同参画施策を行っていると認識している人は少ないと思います。具体的な行政企画を定期的に行う事に依り市民がこれを知る事になると思います。 例えば若い人だけのボランティア活動の提案とこれに応募（男女同数年令別になど）した人達に資格証を渡すなど
50 歳代	女性	身体のつくりが異なるので完全平等は無理です。役割分担とすべきです。 女性の社会進出に関しては能力ある人はどんどん活躍すべきです。 家庭（子育てや介護）が障害となるのなら、それは「仕事とは生きるためにすること、生活自体が荒んでは本末転倒」と思います。なので、家庭が平穏でいられる働き方を社会が認めることです。IT や科学が発展しても子の成長は昔と変わらない。「生きるために働く」と目的を間違えないように。 資源の少ない日本は子が資源です。心身共に健康な子を育てる先行投資を社会がすべきです。

年齢	性別	自由意見
70 歳代	男性	現在の社会状況では夫婦で子供がいれば互いに協力して家庭生活を営まないと、収入面、保育面で社会生活を営めないので、男女共同参画のし易い政策をつくらないといけない。
60 歳代	男性	私はこのアンケートが来るまで、川西市男女共同参画について何も知りませんでした。この機会に知ることが出来ただけでも、川西市の取り組みが分かり良かったと思います。男女共に、幸せに過ごせる世の中になるよう願っています。

（９）教室等の開催

年齢	性別	自由意見
70 歳代	女性	ＤＶ、セクハラ、ＨＩＶ、ＬＧＢＴなど新しい言葉は学習する機会が高齢になるとまずない。事故や事件になって知ることはある。それは不幸なことではないでしょうか？当市の中心である男女参画センターを中心として、公民館を利用すれば学ぶ機会ができるのでは？出前、出張をすればよい手考えます。
50 歳代	男性	一方、男性の独身比率が女性よりも高い現状から男性への家庭料理教室など安価で役に立つ家事教室の開催機会増加を望む。家事の中で一番健康に直結するのはこれだと思う。民間の料理教室は女性ばかりで行きにくい人も多いはず。バーベキュー講座の様に参加しやすく且つ美味しいものをカッコよく作れるといった内容のものを企画し男性の家事スキル向上、自立率を高めれば、ひいては結婚率向上や結婚後の分担も案外抵抗無く出来ると考える。高齢者人口も今後増加することもあり、必要としている方は多いと思われる。
80 歳以上	男性	女性の起業講習会は多いが、男性対象は少ない様に思う。お金の儲け方を小さい時から教える（学校の先生はだめ、負担増になる）国際人となれる人（男女共）を育てる。日常語を英語にしていく。

（10）情報提供

年齢	性別	自由意見
50 歳代	女性	パレット川西が自宅近くにあるので参画センターがある事は知っていたが、正直何をやっている所なのかは知らなかった。広報などで、もう少し特集を組んだり関心を引く様なアピールをすれば良いと思う。密かに悩んでもいる人も結構いるのでは？どこに相談していいかわからないと思っている人はたくさんいると思う。
30 歳代	女性	川西市に住んで 3 年程になるが、市の男女共同参画施策について、広報誌くらいでしか具体的に知る機会がなかった。このアンケートをきっかけに自分でも HP 等で調べたいと思うが、もっと情報を得る機会が増えれば嬉しい。
60 歳代	男性	広報活動の拡散ＳＮＳ等の活用できる情報発信の環境の構築 動画配信による具体的な内容説明（紙ベース等の広報紙も必要だが電子メディアも必要。HP だけでは不十分）
20 歳代	女性	男女共同参画施策として何があるのか、それによって川西市における何かに変化はあったのか疑問です。 日頃、積極的に情報を探したりしているわけではないので、ポスター等が公共の場にあれば目について、資料があれば手に取りやすい気がします。

（11）アンケート

年齢	性別	自由意見
30 歳代	女性	職場は大阪であり、未婚で子どもを持たないこともあって（回答の中の育児の項目は近所に住む甥について答えています）、普段は市の取り組みにそこまで興味がありませんでした。今回意識調査に答えることができてよかったです。
40 歳代	女性	男女共同参画…名前が長くて（漢字だし）興味を持ちづらいです。施設も見ているんだろうけどどこにあるか知らないです。内容は市民一人ひとりに大切な事なのに…と、このアンケートで思いました。
50 歳代	女性	男女共同参画？ってとても難しく聞こえてどういうものだろうと思います。とても普通で当たり前のようでなかなかむずかしいことなのかもしれませんが色んなことを取り進められているのは市民としてとてもありがたいことだと思います。男女や年齢や職業や色んなものに縛られずに人間として認めあったり許しあったり豊かな社会になることがどんどん進められるといいです。このアンケートでそういう気づきをさせてもらったこともよかったです。
80 歳以上	女性	男女共同参画に対して全く無知でした。少しわかった様な気がした。

年齢	性別	自由意見
60 歳代	女性	意識調査も出来るだけ多くの人の声を聞くべき人数を限ってはダメ。一人一人環境や成長過程や考え方も違うのに、統計を出そうとする事自体に無理がある。例えば限られた人数の中に、LGBT の方が何人存在するのでしょうか。なんの悩みもナイ私が回答しても、全く意味が無い。悩みと言えば、お国に納めるお金の金額が多くて、仕事を続けなくてはならないぐらいでしょうか…。
70 歳代	女性	高齢のため要望がございません。もっと若い時であればしかりと意識を持ち調査のことの協力を惜しみませんでしたが申し訳ありません。有難うございました。
60 歳代	女性	知らない項目もあり新たに知ることができる機会となりました。
70 歳代	女性	夫が退職後家事をよくしてくれるようになり、このような関係はよいと思う。ただ夫の中には家事を手伝ってやっているという意識がありやれるほうがやるという負担に思わない関係が良いと思うが、子どものころから家庭参加社会参加して自然に身に着けられれば良いと思う。このアンケートで私自身無関心でいたと反省している。
80 歳以上	男性	高齢であり、又市政に関して無関心、勉強不足のため自分の知らないこと（市政等）が多いことを痛感しました。積極的に自分から動けば良かったかなと思います。
80 歳以上	男性	困っている人の声を聞く、強制はしない。
30 歳代	男性	こういったアンケートの取り組みは知る機会が増えるため非常に良い方法だと思います。
50 歳代	男性	結婚もしておらず意見が役立ちそうにありませんが、こういったアンケートは良いと思うのでこれからも続けてください。応援してます。
50 歳代	女性	今回のアンケートを答えることによって男女共同参画の施策の内容が理解できた。 私の今の生活には考えることもない内容だが苦しんでいる人が存在している限り相談窓口や啓発活動は必要だと思うし「私には関係ない」ではなく関心を持ち、困っている人に「相談窓口に行ってみたら・・」と声を掛けるぐらいははしたいと思う。
30 歳代	男性	耳にした事があるワードは多いが、実状を知らない事柄が多い。また今回の質問内容は世代により回答が変わる事はもちろん、「個人の年齢」によっても考えが変わる内容である為、中々改善策が打ち出しにくいと思いますが、まずは多くの方に実状を知ってもらう事が大事と考えます。また、通常生活において「ゆとり」を持ち、心の余裕ができる事が最大の改善策と思います。

（12）行政

年齢	性別	自由意見
50 歳代	女性	今まであまり認知がありませんでした。広報を期待します。
70 歳代	女性	積極的に知ろうと思わなかった。もっと魅力的な広報の仕方を考えて欲しい。
50 歳代	女性	女性の首相や女性の官僚がどんどんと活躍されている海外にくらべて高齢の男性ばかりがいつまでも居すわる日本の政治では何も変わらないと思う。そんな中で男女共同参画施策について真剣に取り組んでいこうとしてる越田市長に期待しています。男女同じように LGBT の人もみんなが住みやすい川西市になっていけばいいのにと思います。
60 歳代	男性	初めに男女共同参画ありきの意識調査となっておりますが個人的には（余計なことを書いて申し訳なかったのですが）そもそものところの、それ以前にこれらの施策に問題意欲がない、又は障害（抵抗する）勢力に対してどうするかの視点が必要と考えておりその意味ではこれらの活動に積極的前向きな方への何かしらの（市民としての）明確なメリットを付帯しての行政側の施策を望みます。
40 歳代	女性	いつも施設を利用させて頂いています。ありがとうございます。 弱者などへのきめ細やかなサポートや、相談にも、丁寧に対応して頂き、ありがたいと思っています。 職場復帰を考えていた時も、相談したりして、背中を押して頂けました！市民みんなに開かれた施策を川西にはどんどん発揮してもらい、より、住みやすい町に発展していくよう期待しています！お願いします。

Ⅴ　資料（調査票）

川西市男女共同参画に関する市民意識調査

ご協力のお願い

平素は、市政推進にご理解とご協力を賜り厚くお礼申しあげます。

本市では、**男女が性別に関わらず個性と能力を発揮し、いきいきと暮らすことができる社会の実現に向けて**、平成25年３月に策定した第３次川西市男女共同参画プランに基づき、さまざまな取り組みを進めています。

今回の調査は、令和５年度にこのプランの見直しをするにあたり、市民の皆さまのお考えをお聞かせいただくために行うものです。満16歳以上の女性1,000人、男性1,000人あわせて2,000人の方を無作為に選ばせていただきました。

この調査票にご記入いただいた内容については、統計的に処理を行い、調査の目的以外に使用することや皆さまのご迷惑になるようなことは一切ございません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申しあげます。

令和４（2022）年11月

川西市長　**越田　謙治郎**

◆◇ 回答にあたってのお願い ◇◆

●回答は、次のいずれかの方法でお願いします。

①調査票による回答

この調査票に直接回答を記入し、同封の返信用封筒（切手不要・お名前の記入不要）に入れて、令和4年12月14日（水）までにご返送ください。

②インターネットによる回答

パソコン、タブレット、スマートフォンで、下記URLまたは右のQRコードより回答ページにアクセスし、ユーザーIDを入力の上、12月14日（水）23時59分までにご回答ください。

パソコン用URL　https://questant.jp/q/Y799MY9E

ユーザーID　●●●●●●

●調査票による回答の場合は、以下の点にご注意ください。

①封筒のあて名の方がお答えください。代筆いただいても結構です。

②回答は、当てはまる選択肢を選んで、１・２・３・・・の数字に○をつけてください。

③設問によっては、○をつける個数が決められていたり、回答していただく方が限られていたりするものがありますので、設問の指示に従ってお答えください。

●本調査に関するお問い合わせは、下記までお願いします。

川西市　市民環境部　人権推進課

ＴＥＬ　072-740-1150（直通）　ＦＡＸ　072-740-1151

E-mail　kawa0014@city.kawanishi.lg.jp

男女の地位についてお聞きします。

問１　あなたは、どのような分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。
（あてはまるものすべてに○）

１．家庭生活	２．学校生活
３．雇用の機会や職場での賃金・待遇	４．地域活動の場
５．法律や制度上	６．社会通念・習慣・しきたり
７．政治・経済活動への参加	８．社会全体
９．すべての分野で平等ではない	

問２　あなたは、ジェンダー問題や男女共同参画がどういうものなのかを学んだり、教えられたりしたことがありますか。（どちらか１つに○）

１．ある
２．ない → 問４へ

ジェンダーって？
　社会的・文化的につくられた性差のことだよ。生物学的な性（セックス）とは区別して使われているよ。

〔問２で「１．ある」と答えた方におたずねします。〕

問３　それはどこでですか。（あてはまるものすべてに○）

１．家庭で	２．幼稚園・保育園・こども園で
３．小学校で	４．中学校で
５．高等学校で	６．大学で
７．職場で	８．自主的な学習グループで
９．新聞やテレビなどマス・メディアで	10．民間のカルチャーセンターで
11．公民館などの講座で	
12．川西市男女共同参画センターが主催する講座で	
13．県や他市の男女共同参画（女性）センターなどが主催する講座で	
14．その他（具体的に：　　）	

家庭生活についてお聞きします。

問４　あなたは結婚・離婚・家庭についてどう思いますか。
（①～⑤のそれぞれについて、１か２に○）

	そう思う	そう思わない
① 結婚（法律婚）は、した方がよい	1	2
② 結婚（法律婚）しても必要なときは離婚すればよい	1	2
③ 夫は外で仕事をし、妻は家事・育児など家庭を守るのがよい	1	2
④ 夫婦別姓が選択できる制度を導入するべきである	1	2
⑤ 同性婚ができる制度を導入するべきである	1	2

問５-①　あなたの家庭では、次のようなことを主に誰が担っていますか。
（①～⑥のそれぞれについて、１～４の中であてはまるもの１つに○）

	主として男性	男女同程度	主として女性	その他／非該当（ひとり暮らしなど）
① 日常の家事（食事のしたく、そうじ、洗濯、ゴミ捨てなど）	1	2	3	4
② 生活費の確保	1	2	3	4
③ 日常の家計管理	1	2	3	4
④ 子育て	1	2	3	4
⑤ 高齢者、病人の介護・看護	1	2	3	4
⑥ 家庭における重要な決定	1	2	3	4

問５-②へ　　問５-④へ

[問５-①で、「１」「２」「３」と答えた方におたずねします。]

問５-②　問５-①の状況にあなたは満足していますか。（○はそれぞれに１つずつ）

	満足	ある程度満足	あまり満足していない	満足していない
① 日常の家事（食事のしたく、そうじ、洗濯、ゴミ捨てなど）	1	2	3	4
② 生活費の確保	1	2	3	4
③ 日常の家計管理	1	2	3	4
④ 子育て	1	2	3	4
⑤ 高齢者、病人の介護・看護	1	2	3	4
⑥ 家庭における重要な決定	1	2	3	4

問５-④へ　　問５-③へ

[問５-②で、「あまり満足していない」「満足していない」と答えた方におたずねします。]

問５-③　希望の役割分担になっていない主な理由は何だと思いますか。（○は１つ）

１．仕事が忙しい	２．相手とのコミュニケーション不足
３．あまり関心がない	４．知識がない
５．不得意	６．世間体
７．その他（具体的に　　）	

問５-④　１日のうちであなたが家事に要する平均時間はそれぞれどのくらいですか。

平日（○は１つ）		休日（○は１つ）	
１．０分	２．30 分未満	１．０分	２．30 分未満
３．30 分～１時間未満	４．１～２時間未満	３．30 分～１時間未満	４．１～２時間未満
５．２～３時間未満	６．３～４時間未満	５．２～３時間未満	６．３～４時間未満
７．４～５時間未満	８．５時間以上	７．４～５時間未満	８．５時間以上

子育てについてお聞きします。

問６-①　子育てについてあなたはどう思いますか。
（①～⑦のそれぞれについて、１か２に○）

	そう思う	そう思わない
① 祖父母、保育士等父母以外の多くの人々が子育てに関わるのがよい	1	2
② ３歳までは、母親が子育てに専念するべきである	1	2
③ 子育ては、夫も妻も等分に関わるのがよい	1	2
④ 男女とも、経済的自立ができるように育てるのがよい	1	2
⑤ 男女とも、家事・育児ができるように育てるのがよい	1	2
⑥ 個性を伸ばし、個人を尊重する育て方がよい	1	2
⑦ 女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい	1	2

問６-②　１日のうちであなたが育児に要する平均時間はそれぞれどのくらいですか。
※同居・別居は問いません。

平日（○は１つ）		休日（○は１つ）	
１．０分	２．30 分未満	１．０分	２．30 分未満
３．30 分～１時間未満	４．１～２時間未満	３．30 分～１時間未満	４．１～２時間未満
５．２～３時間未満	６．３～４時間未満	５．２～３時間未満	６．３～４時間未満
７．４～５時間未満	８．５時間以上	７．４～５時間未満	８．５時間以上
９．対象がいない		９．対象がいない	

介護についてお聞きします。

問７　あなたは今、家族の誰かを介護していますか。または介護をしたことがありますか。
（どちらか１つに○）

１．している（したことがある）
２．していない（したことがない）

〔問７で「１．している（したことがある）」と答えた方におたずねします。〕

問８　介護した相手は誰ですか。（あてはまるものすべてに○）

１．配偶者　　２．親
３．兄弟・姉妹　　４．祖父母　　５．配偶者の親
６．配偶者の祖父母　　７．その他（具体的に　　）

〔問７で「１．している（したことがある）」と答えた方におたずねします。〕

問９-①　介護はどのように行っていますか（または行っていましたか）。
（あてはまるもの１つに○）

１．主に自分一人で介護している
２．主に自分が介護しているが、配偶者、子ども、その他の家族などの協力がある
３．主に他の人が介護しているのを手伝っている
４．サービスなどを利用しながら介護している
５．その他（具体的に：　　）

問９-②　現在、介護をしている方におたずねします。１日のうちであなたが介護に要する平均時間はそれぞれどのくらいですか。

平日（○は１つ）		休日（○は１つ）	
１．０分	２．30 分未満	１．０分	２．30 分未満
３．30 分～１時間未満	４．１～２時間未満	３．30 分～１時間未満	４．１～２時間未満
５．２～３時間未満	６．３～４時間未満	５．２～３時間未満	６．３～４時間未満
７．４～５時間未満	８．５時間以上	７．４～５時間未満	８．５時間以上

女性と仕事についてお聞きします。

問10　一般的に女性が収入をともなう仕事をもつことについて、あなたはどう思いますか。
（あてはまるもの１つに○）

１．子どもができても、育児休業をとるなどして仕事はずっと続ける方がよい
２．結婚や出産で退職または一時離職し、子育てを終えてから再び仕事をもつ方がよい
３．結婚や出産までは仕事をもつ方がよい　　４．仕事は家計の補助程度の働きでよい
５．女性は仕事をもたない方がよい　　６．その他（具体的に　　）

問11　あなたは、現在の女性は働きやすい状況にあると思いますか。
（あてはまるもの１つに○）

１．そう思う
２．そう思わない
３．わからない

〔問11で「２．そう思わない」と答えた方におたずねします。〕

問12　そう思わない理由は何ですか。（あてはまるもの３つまでに○）

１．働く場が限られているから
２．能力発揮の場が少ないから
３．労働条件が整っていないから
４．保育・介護施設が整備されていないから
５．昇進・給与等に男女の差別的扱いがあるから
６．結婚・出産退職の慣行があるから
７．男は仕事、女は家庭という社会通念があるから
８．家族の理解、協力が得にくいから
９．その他（具体的に：　　）

〔すべての方におたずねします。〕

問13　家庭で育児や介護が必要なとき、共働き夫婦（事実婚を含む）が育児休業や介護休業を取るとしたらどうするのがよいと思いますか。育児休業、介護休業それぞれについてお答えください。

●育児休業（あてはまるもの１つに○）	●介護休業（あてはまるもの１つに○）
１．どちらかといえば夫が取るのがよい	１．どちらかといえば夫が取るのがよい
２．どちらかといえば妻が取るのがよい	２．どちらかといえば妻が取るのがよい
３．夫も妻も同じように取るのがよい	３．夫も妻も同じように取るのがよい
４．その他（具体的に：　　）	４．その他（具体的に：　　）

ワーク・ライフ・バランスって？
　誰もが、やりがいや充実感をもって仕事をするだけじゃなく、家庭や地域生活なども充実させて、自分が望む人生を送ることだよ。

ワーク・ライフ・バランスについてお聞きします。

問14　あなたの現実（現状）に最も近いものはどれですか。（あてはまるもの１つに○）

１．「仕事」を優先している
２．「家庭生活」を優先している
３．「地域・個人の生活」を優先している
４．「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
５．「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
６．「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
７．「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
８．わからない

問15　あなたの希望に最も近いものはどれですか。（あてはまるもの１つに○）

1．「仕事」を優先したい
2．「家庭生活」を優先したい
3．「地域・個人の生活」を優先したい
4．「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
5．「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
6．「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
7．「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
8．わからない

問16　あなたは次のような活動をしていますか。（あてはまるものすべてに○）

1．県・市町の審議会委員会などでの活動　　2．自治会・コミュニティ等の活動
3．PTA活動　　4．子ども会などの青少年育成活動
5．青年団体・老人団体等の活動
6．消費者団体・生活協同組合等の消費者活動
7．ＮＰＯやボランティアなどの市民活動
8．その他の社会のための貢献活動（具体的に：　　）
9．活動していない　→ 問１８へ

問17　あなたが参加した活動では、次のようなことがありましたか。
（①～⑦のそれぞれについて、１～４の中であてはまるもの１つに○、それ以外の内容については、「⑧ その他」に記入してください。）

	ある	少しある	ない	わからない
① 行事やイベントの企画は主に男性が決定している	1	2	3	4
② 代表者は男性から選ばれる	1	2	3	4
③ 女性は責任のある役を引き受けたがらない	1	2	3	4
④ お茶入れや食事の準備などは女性がしている	1	2	3	4
⑤ 女性は発言しにくい雰囲気がある	1	2	3	4
⑥ 名簿上は男性が会員になっているが実際は女性（配偶者）が活動している	1	2	3	4
⑦ PTA活動は女性中心、自治会は男性中心であるなど、男性と女性の仕事がわけられている	1	2	3	4
⑧ その他（具体的に：　　）	1	2		

問18　あなたは、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1．男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす
2．男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす
3．夫婦や家族でよく話しあう
4．当事者（夫婦間）の考えを尊重し、まわりの人が固定的な観念等を押しつけない
5．社会の中で、男性が家事などを行うことに対する評価を高める
6．労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及し、仕事以外の時間を多く持てるようにする
7．男性が家事などに関心を高めるよう情報提供や啓発を行う
8．男性の家事や子育て、介護等の技能を高める
9．男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）づくりをすすめる
10．仕事との両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設ける
11．その他（具体的に：　　）

性と人権についてお聞きします。

ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）、デートＤＶって？
ＤＶは、配偶者（事実婚、元配偶者を含む）や恋人などの親密な関係にある人、またはあった人からの暴力のことだよ。ただ、暴力といってもなぐる、けるといった身体的暴力だけじゃないんだ。同意をしていないのに無理やり性行為をする、避妊に協力してくれないなどの性的な暴力、ののしる、無視するなどの精神的な暴力、生活費を渡さないなどの経済的な暴力もあるんだ。特に恋人間で起こる暴力のことをデートＤＶと言うんだ。

問19　あなたは、配偶者やパートナー、交際相手からＤＶまたはデートＤＶを受けたことがありますか。（どちらか１つに○）

1．ある　　2．ない → 問２４へ

〔問19で「１．ある」と答えた方におたずねします。〕

問20　あなたが受けたＤＶまたはデートＤＶはどのような内容ですか。（あてはまるものすべてに○）

1．「外出しないように」と言うなど行動を制限する
2．「誰のおかげで、おまえは食べられるんだ」と言う
3．意に反して、性的行為を強要する
4．殴ったり、蹴ったり、平手で打つなどする
5．交友関係を細かく監視する
6．メール等の返事が少しでも遅いと常に一方的に怒る
7．話しかけても無視して返事をしない
8．生活していけないほどの小額なお金しか渡さない
9．「女（男）のくせに」とバカにしたり、見下したりする
10．相手や相手の家族に危害を加えると脅す
11．その他（具体的に：　　）

〔問19で「１.ある」と答えた方におたずねします。〕

問21　あなたがＤＶまたはデートＤＶを受けたとき、どこかに相談しましたか。
（どちらか１つに○）

１．はい　　２．いいえ

〔問21で「１．はい」と答えた方におたずねします。〕

問22　あなたがＤＶまたはデートＤＶを受けたとき、どこかに相談しましたか。
（あてはまるものすべてに○）

１．警察　　２．公的機関　　３．家族・親戚
４．友人・知人　　５．その他（具体的に：　　）

〔問21で「２．いいえ」と答えた方におたずねします。〕

問23　相談しなかった理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

１．誰（どこ）に相談してよいのかわからなかったから
２．恥ずかしくて誰にも言えなかったから
３．相談しても無駄だと思ったから
４．相談したことがわかると、仕返しやもっとひどい暴力を受けると思ったから
５．相談相手の言動により、不快な思いをさせられると思ったから
６．自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから
７．世間体が悪いと思ったから
８．他人を巻き込みたくなかったから
９．自分に悪いところがあると思ったから
10．相談するほどのことではないと思ったから
11．その他（具体的に：　　）

〔すべての方におたずねします。〕

問24　ＤＶ被害を受けたときに相談できる機関や関係者のうち、あなたが知っているものはどれですか。（あてはまるものすべてに○）

１．警察
２．川西市配偶者暴力相談支援センター
３．市役所
４．川西市男女共同参画センター
５．兵庫県女性家庭センター（配偶者暴力相談支援センター）
６．民生児童委員
７．人権擁護委員
８．民間支援団体
９．医師その他医療関係者
10．教員その他学校関係者
11．その他（具体的に：　　）

問25　あなたは、デートＤＶをなくすためには、どうしたらよいと思いますか。
（あてはまるものすべてに○）

1．家庭で、保護者が子どもに対し、暴力がいけないことを教える
2．家庭で、暴力について話し合う機会をつくる
3．学校などで、男女が対等な関係であることや、暴力を防止するための教育を行う
4．地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う
5．メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う
6．暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、インターネットなど)を取り締まる
7．身近に安心していつでも相談できる窓口を増やす
8．メールや電話での相談窓口を増やす
9．学校などに、デートＤＶの相談窓口をつくる
10．加害者の暴力を罰せられるような制度や法律をつくる
11．暴力を振るったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う
12．その他（具体的に：　　）
13．わからない

セクシュアル・ハラスメント（セクハラ・性的嫌がらせ）って？
職場や学校などで、相手を不快や不安にさせる性的な言葉や行動のことだよ。たとえば、お酒の席でお酌をさせること、結婚や出産のことをしつこく聞くことなんかもセクハラだよ。

問26　セクシュアル・ハラスメント（セクハラ、性的嫌がらせ）やドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）は、男女互いの性に対する人権侵害だと思いますか。
（どちらか１つに○）

1．思う　　2．思わない

問27　あなたやあなたのまわりの方が、学校・職場・地域活動等でセクシュアル・ハラスメントの被害にあわれたことがありますか。（あてはまるもの１つに○）

1．自分自身が被害にあったことがある
2．友人や職場の仲間など、自分のまわりに被害にあった人がいる
3．見たり聞いたりしたことはない → 問２９へ
4．その他（具体的に：　　）

問２８へ

〔問27で「１」「２」「４」と答えた方におたずねします。〕

問28 あなたやあなたのまわりの方がセクシュアル・ハラスメントの被害にあわれたとき、あなたはどのような対応をしましたか。（あてはまるものすべてに○）

1．セクハラを行った相手に直接抗議した
2．家族や友人に相談した
3．職場や学校の苦情処理機関や上司・教師などに訴えた
4．公的な相談機関に相談した
5．民間の相談機関に相談した
6．弁護士に相談した
7．裁判所に訴えた
8．警察に訴えた
9．何もできなかった
10．その他　（　　）

問29 次のような内容は、小学校、中学校、高校のうち、どの時期に学校で学んでおくべきだと考えますか。

	小学校	中学校	高校	学校で教える必要はない
① 男女平等について	1	2	3	4
② デートＤＶについて	1	2	3	4
③ セクハラ、性暴力について	1	2	3	4
④ 性の不安や悩みについて	1	2	3	4
⑤ 男女のからだのしくみ	1	2	3	4
⑥ 妊娠のしくみ	1	2	3	4
⑦ 避妊の方法	1	2	3	4
⑧ 人工妊娠中絶	1	2	3	4
⑨ HIV／エイズ、性感染症	1	2	3	4
⑩ 性的マイノリティ（LGBTなど）	1	2	3	4

問30　ユネスコによる「性教育国際ガイドライン」では、人間関係、人間の発達、性行動など６つの重要概念を学習目標として示し、子どもの発達段階に応じて教育することを提唱しています。あなたは性教育についてどのように思われますか。
（あてはまるものすべてに○）

1．間違った性情報があらゆるところで氾濫しているので、できるだけ早い時期に行った方がいい
2．そのような教育は早く行えば行うほど、子どもに悪影響を及ぼすので行わない方がよい
3．家庭で家族が、子どもの成長に応じて必要なことを教えていくのがよい
4．学校で教師が、子どもの成長に応じて必要なことを教えていくのがよい
5．学校では教えない方がよい
6．保健所や保健センターなどが、積極的に教えていくのがよい
7．国や自治体などの公共団体が積極的に講座等を開き教えていくのがよい
8．思春期になれば性に興味や関心を持つことは自然なことなので、あえて教える必要はない
9．その他（具体的に：　　）

男女共同参画施策についてお聞きします。

問31　次の「ことがら」や「ことば」を見たり聞いたりしたことがありますか。
（①～⑭のそれぞれについて、１～３の中であてはまるもの１つに○）

	よく知っている	聞いたことがある	知らない
① 第３次川西市男女共同参画プラン（2013年策定）	1	2	3
② 川西市男女共同参画推進条例（2015年制定）	1	2	3
③ 育児・介護休業法（1992年施行）	1	2	3
④ 女性活躍推進法（2016年施行）	1	2	3
⑤ ポジティブ・アクション（積極的改善措置）	1	2	3
⑥ ジェンダーギャップ指数	1	2	3
⑦ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	1	2	3
⑧ ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）	1	2	3
⑨ デートＤＶ	1	2	3
⑩ 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」（通称：ＤＶ防止法）	1	2	3
⑪ マタニティ・ハラスメント（マタハラ）	1	2	3
⑫ セクシュアル・マイノリティ（性的少数者）	1	2	3
⑬ 川西市パートナーシップ宣誓制度（2021年導入）	1	2	3
⑭ LGBT（レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダーの頭文字を並べた呼称）	1	2	3

問32　あなたは、複合施設「パレットかわにし（１階）」にある川西市男女共同参画センターを利用したことがありますか。または、ご存じですか。（あてはまるもの１つに○）

1．利用したことがある
2．知っているが利用したことはない
3．聞いたことがある
4．知らない

問33　本市には男女共同参画を進めていくための拠点として川西市男女共同参画センターがありますが、あなたは、この男女共同参画センターにどのようなことを希望しますか。（あてはまるものすべてに○）

1．男女共同参画に関する図書や情報の収集・提供
2．自主的な活動への助成・支援
3．講座・学習時の保育支援
4．「女性の悩みごと相談」などの相談事業の充実
5．セクハラ・ＤＶ被害者への相談・支援
6．男女共同参画に関する講座の充実
7．ボランティア等の人材を育成する講座の充実
8．就労を支援する講座の充実
9．起業やＮＰＯ設立に関する相談
10．その他（具体的に：　　）

問34　あなたは、防災・災害対策において、性別に配慮した対応で必要だと思うものはありますか。（あてはまるものすべてに○）

1．避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、授乳室、洗濯干場等）
2．避難所運営に男女がともに参画し、被災者対応に男女両方の視点が入ること
3．災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障がい者、妊産婦のサポート体制）
4．公的施設の備蓄品のニーズ把握、災害時に支給する際の配慮
5．被災者に対する相談体制
6．自治会等の地域における防災訓練に、男女がともに参画し男女両方の視点が入ること
7．防災に関する会議に女性委員の割合を増やすこと
8．その他（具体的に：　　）

問35　あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1．現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと
2．女性自身がリーダーになることを希望しないこと
3．上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと
4．長時間労働の改善が十分ではないこと
5．企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること
6．保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと
7．保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと
8．その他（具体的に　　）
9．特にない
10．わからない

問36　あなたは、政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1．多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される
2．人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる
3．女性の声が反映されやすくなる
4．国際社会から好印象を得ることができる
5．男女を問わず優秀な人材が活躍できるようになる
6．男女を問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる
7．労働時間の短縮など働き方の見直しが進む
8．男性の家事・育児などへの参加が増える
9．今より仕事以外のことが優先され、業務に支障をきたすことが多くなる
10．男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる
11．保育・介護などの公的サービスの必要性が増大し、家計負担及び公的負担が増大する
12．その他（具体的に：　　）
13．特にない
14．わからない

あなた自身についてお聞きします。

◆あなたの性別を教えてください。自認する性でけっこうです。（○は１つ）

1．女性　　2．男性　　3．（　　）

◆あなたの年齢を教えてください。（○は１つ）

1．10歳代	2．20歳代	3．30歳代	4．40歳代
5．50歳代	6．60歳代	7．70歳代	8．80歳以上

◆あなたは結婚していらっしゃいますか。（○は１つ）

1．結婚（法律婚）している
2．結婚（法律婚）していないがパートナーと暮らしている
3．結婚（法律婚）していたが死別した
4．結婚（法律婚）していたが離婚した
5．結婚（法律婚）していない
6．その他（具体的に：　　）

◆お子さんはいらっしゃいますか。※同居・別居は問いません。

1．はい　　2．いいえ　　3．その他（　　）

〔「１．はい」と答えた方におたずねします。〕

◆一番下のお子さんの就学状況を教えてください。（○は１つ）※お孫さんは含みません。

1．乳児（１歳未満）　　2．幼児（１歳以上就学前まで）
3．小学生　　4．中学生
5．高校生　　6．専修学校、短大、大学、大学院などの学生
7．学校を終えた

◆あなたが同居している家族の構成を教えてください。（○は１つ）
※結婚には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦も含みます。

1．単身世帯（一人暮らし）
2．１世代世帯（夫婦のみ・兄弟のみ・姉妹のみ・パートナーのみなど）
3．２世代世帯（親と子）
4．３世代世帯（親と子と孫等）
5．その他（　　）

◆あなたは、現在、収入をともなう仕事についていますか。産前・産後、育児介護休暇中の人は働いているものとみなします。（どちらか１つに○）

1．仕事をしている　　2．仕事をしていない → 付問２へ

〔「１.仕事をしている」と答えた方におたずねします。〕

付問１　どのような仕事をしていますか。（あてはまるもの１つに○）

1．営業主・会社経営　　2．家業手伝い（農林漁業を含む）
3．自由業者（弁護士・開業医・個人教師等）　　4．内職など（在宅で受託）
5．公務員等（私立学校教師含む）　　6．正社員
7．臨時雇用・パート・アルバイト　　8．派遣社員
9．その他（具体的に：　　）

〔「２．仕事をしていない」と答えた方におたずねします。〕

付問２　仕事をしていない理由は何ですか。（あてはまるもの１つに○）

１．学校に通っているから
２．家事・育児・介護に専念したいから
３．家事・育児・介護を担わざるを得ないから
４．保育・介護施設が整備されていないから
５．経済的に必要としないから
６．求めているが希望する仕事がないから
７．希望する就労時間に合わないから
８．定年・高齢のため
９．健康や体力に自信がないから
10．趣味やボランティア等の活動をしているから
11．仕事を持たないほうが、自由に生きられるから
12．その他（具体的に：　　）

〔配偶者やパートナーと一緒に暮らしていらっしゃる方におたずねします。〕

◆あなたの配偶者やパートナーは収入を得る仕事をしていますか。（どちらか１つに○）

１．仕事をしている　　２．仕事をしていない

川西市の男女共同参画施策について、ご意見、ご要望等がございましたら、ご自由にお書きください。

お忙しいところ、ご協力いただきまして、ありがとうございました。
ご回答いただきました調査票は、同封の返信用封筒（切手は不要）に入れて、12月14日（水）までにご返送いただきますようお願いいたします。
ウェブ回答が完了した方は、このアンケート用紙・封筒は破棄してください。

川西市男女共同参画に関する市民意識調査報告書
令和５年３月

発行：市民環境部　人権推進課
兵庫県川西市中央町 12-1
電　話：072-740-1150
ＦＡＸ：072-740-1151